

外務省  
記録

自  
至  
年  
月  
日

莫斯科ニ於テ北樺太利權  
契約締結交渉一件  
石油部三

第

1  
7  
10  
34-2

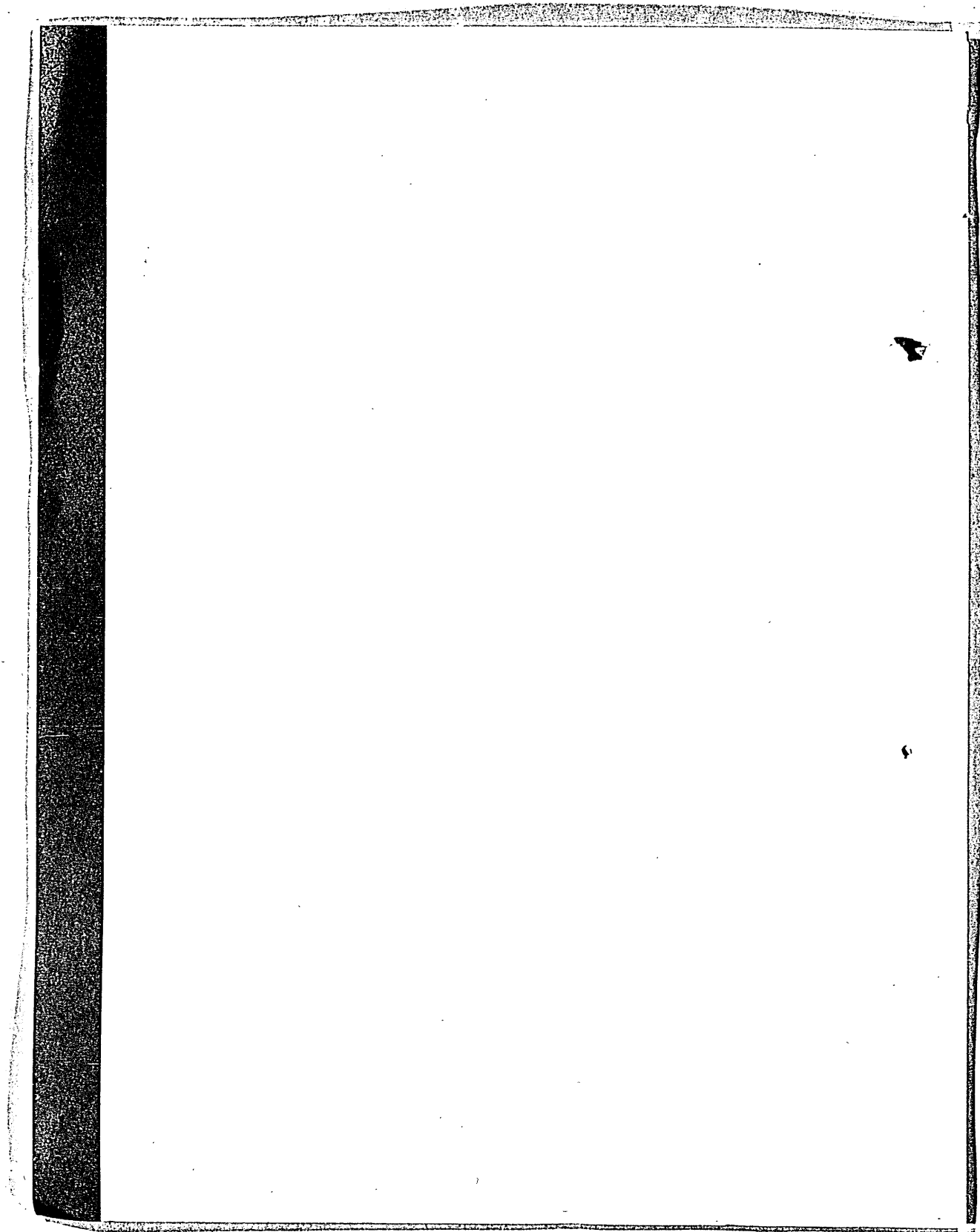
自  
至  
年  
月  
日

莫斯科ニ於テ北樺太利權  
契約締結交渉一件  
石油部三

第  
卷

1-1968

0005



1-1968

0006

機密  
14.1.3

附屬書類添付

歐米局

官房機密第一七九號

大正十四年十一月二日

外務次官 出淵 勝次 殿  
海軍次官 大角 岑



要目付了  
少卿

石油利権交渉中先方提案ニ對スル修正希望  
事項ニ關スル件

莫斯科ニ於ケル石油利権交渉中先方提案ニ對スル北樺太石油利権會社側ノ修正希望事項ニ關シ當省ノ意見參考迄  
右送付ス

別冊二部添

海軍

第一條 北辰會側修正希望ニ對スル海軍側ノ意見  
先方提案第二項ニ「新設備ヲ行ヒ且ツ之ヲ使用スルノ權利ヲ許與ス」トアルヲ「新設備ヲ行ヒ且ツ之ヲ所有シ使用スルノ權利ヲ許與ス」ト訂正スルヲ要ス

理由 單ニ既使用權ヲ有スルノミニテハ事業遂行上困ル、所有權ヲモ確定シ置クヲ要ス條約上當方ノ主張至當ナルハ大使宛電報ノ如

北辰會挿入希望事項タル「其附帶事業タル化學工業、農林業運送業等ヲ行ヒ得ル」ノ權利ハ本石油利権ノ産業的及商業的經營ニ必要ナル程度ニ之ヲ行ヒ得ル事トセハ可ナラム

第二條 北辰會修正希望第二項ノ要旨ニ關シテハ利権契約第六條ノ規定モアリ又日露基本條約議定書乙第七項及第八項ノ規定ニ抵触スルカ如キ勞農側ノ立法ニ對シテハ向後ト雖モ日本政府ヨリ抗議シ得ルモノナルカ故ニ利権者トシテハ勞農側ノ立法權ヲ拘束スルカ如キ提案ハナササルヲ可トスヘシ

MT 1710372

02

MT 1710372

01

1-1968

第三條 北辰會修正希望ノ通ニテ可ナラム

第四條 先方提案第三項「但シ」以下ヲ削除スルヲ可トス

理由 所有権カ利権者ニ在ル立前トナレハ斯ル規定ハ不要トナレハナリ

第五條 北辰會側修正希望通ニナレハ誠ニ結構ナルモ戰時徵發ニ付テハ先方ニモ相當強キ論據アル事故我主張ノ貫徹或ハ困難ナルナラムカ此ノ點ニ付テハ第十九條ニ對スル意見ト併テ考慮ヲ要ス

第六條 先方提案中「又ハ無効タラシメ」トアルヲ削ル

理由 本權利ハ日露條約ニ基クモノニシテ勞農側ノ一方的行為ニテ利権ヲ無効ナラシムル事ヲ得サル筈ナルカ故ニ斯ル文句ハ削除スルヲ要ス

第七條 先方提案ニ「該官吏ノ監査ハ」トアルノ次ニ「利権者ノ都合ヲ、ヨキ時期ニ於テ又便宜ナル方法ニ依ルヲ要シ其ノ」ヲ挿入スルヲ可トス

理由 監査官ノ行為カ事業ノ遂行ニ關シ邪魔トナラサル様

右ノ字句ノ挿入ヲ必要トスヘシ

○ 北辰會ニテハ本條ノ削除ヲ希望セルモ種々ノ點ヨリ事業ノ監査ハ必要ナルヘク先方ノ應諾ヲ得ルハ困難ナルヘシ

第八條 北辰會修正希望ニ全意ナリ

第九條 異議ナシ

第十條 先方提案ニ對シ字句ノ上ノミニテハ異議ナシ

第十一條 ○財産所有権ニ關スル意見ハ彙ニ外務側ニ通知セルモノト變ナシ

第三項及第四項ニ對スル北辰會修正希望ニハ全意ナリ

第十二條 北辰會修正希望ニ全意

第十三條 異議ナシ

第十四條 北辰會修正希望ニ全意ナルモ左記事項ノ挿入ヲ必要ト認ム  
○「但シ利権者ニテ掘リシ坑井ヲ含ム地區ハ坑井ト共ニ利権者ニ歸屬セシムルヲ原則トスル事及工業的價值決定者ハ利

MT 1710372

第三條 北辰會修正希望ノ通ニテ可ナラム

理由 所有権カ利権者ニ在ル立前トナレハ斯ル規定ハ不要トナレハナリ

第五條 北辰會側修正希望通ニナレハ誠ニ結構ナルモ戰時徵發ニ付テハ先方ニモ相當強キ論據アル事故我主張ノ貫徹或ハ困難ナルナラムカ此ノ點ニ付テハ第十九條ニ對スル意見ト併テ考慮ヲ要ス

第六條 先方提案中「又ハ無効タラシメ」トアルヲ削ル

理由 本權利ハ日露條約ニ基クモノニシテ勞農側ノ一方的行為ニテ利権ヲ無効ナラシムル事ヲ得サル筈ナルカ故ニ斯ル文句ハ削除スルヲ要ス

第七條 先方提案ニ「該官吏ノ監査ハ」トアルノ次ニ「利権者ノ都合ヲ、ヨキ時期ニ於テ又便宜ナル方法ニ依ルヲ要シ其ノ」ヲ挿入スルヲ可トス

MT 1710372



權者トスル事

第十五條 北辰會修正希望ニハ全意ナリ

但シ先方ニテ提案セル「原油保護ニ關スル專問的規定」ノ  
内容ヲ確メ置クヲ要スヘシ

第十六條 八〇「テシヤチン」トアルヲ一平方露里ニ變更スルヲ要ス

理由 一區域ヲ八〇「テシヤチン」ニ限ル時ハ利權者ノ  
試掘ノ義務ヲ過重ナラシムル虞アルカ故ナリ

第十七條 第二項ニ關スル北辰會修正希望ニハ全意ナリ

第十八條 北辰會修正希望ヲ達成スル事勿論有利ナルモ萬止ムナケレ

ハ報償率ハ六萬噸位ヨリ漸進的ニ率ヲ増加スル事トシテハ  
如何

第十九條 先方提案第二項及第三項ヲ削除スルヲ要スルモ萬一止ムヲ

得サルニ於テハ第五條ニ於テ戰時徵發權ヲ拒絕スル代リ左  
ノ一項ヲ加フルモ可ナリ

一平方露里ニ變更スルヲ要ス

ハ一平方露里ニ變更スルヲ要ス  
トシテハ如何

「戰時事變ニ際シテハ前年度ニ於ケル産油額ノ二割迄政府  
ニ提供スヘシ其ノ代償ハ利權者ト協定セル價格ニ依ル」  
第二項及第三項削除ヲ必要トスル理由ハ疊ニ當省ヨ  
リ外務省宛通牒ノ趣旨ニ基キ

第二十條 北辰會修正希望ニ全意

但シ先方ニ於テ第四項ノ削除ヲ應諾セサルトスレハ北樺  
太嶺山所長ノ設定スル價格ハ仕入實費ト相當手數料トヲ  
加エタルモノヲ下ルヲ得サル事トナスヲ要ス然ラサレハ

第二十二條 北辰會修正希望ニ全意

必需品ノ輸入ヲ困難ナラシムル事アラズ

第二十三條 全 右

第二十四條 全 右

第二十五條 全 右

但シ利益ヲ目的トスル營利會社ニ對シ實費主義ヲ以テ臨

MT 1710372

權者トスル事

第十五條 北辰會修正希望ニハ全意ナリ

但シ先方ニテ提案セル「原油保護ニ關スル專問的規定」ノ  
内容ヲ確メ置クヲ要スヘシ

第十六條 八〇「テシヤチン」トアルヲ一平方露里ニ變更スルヲ要ス

理由 一區域ヲ八〇「テシヤチン」ニ限ル時ハ利權者ノ  
試掘ノ義務ヲ過重ナラシムル虞アルカ故ナリ

第十七條 第二項ニ關スル北辰會修正希望ニハ全意ナリ

第十八條 北辰會修正希望ヲ達成スル事勿論有利ナルモ萬止ムナケレ

ハ報償率ハ六萬噸位ヨリ漸進的ニ率ヲ増加スル事トシテハ  
如何

第十九條 先方提案第二項及第三項ヲ削除スルヲ要スルモ萬一止ムヲ

得サルニ於テハ第五條ニ於テ戰時徵發權ヲ拒絕スル代リ左  
ノ一項ヲ加フルモ可ナリ

MT 1710372

「ムハ不合理ニシテ輸送賃ヲ實費トスル趣旨ニハ賛成シ難シ

第二十六條 異議ナシ

第二十七條 漁業ニ對シ饋毒ニ關スル補償ノ責ナキ事トスル北辰會ノ希望ハ無理ト思フ

第二十八條 北辰會修正希望ニ全意

第二十九條 全右

第三十條 北辰會ハ日本人勞働者ニ對スル勞働法適用除外例ヲ要求セムトスルモ勞農側ノ應諾ヲ得ル事困難ナルベシ

第三十一條 北辰會修正希望ニ全意

第三十二條 全右

第三十三條 全右

但シ先方提案第三項ノ規定ハ單ニ官憲ノ使用權ヲ認ムルノミニシテ先方ノ要求ニヨリ電話線新設等經費ヲ要スヘキ義務ヲ負擔スルカ如キ事無カルヘキモノナルヲ要ス

第三十五條 北辰會修正希望ニ全意

第三十六條 勞農側港灣設備利用ノ件ハ作業ノ邪魔トナラサル範圍内ナレハ他ニモ利用セシメ可然獨占使用權ヲ主張スルハ常方ノ要求過大ナラン

第三十七條 北辰會修正希望ニ全意

第三十八條 全右

第三十九條 異議ナシ

第四十條 先方提案第二項記載ノ内第十五條ハ條約ニ明記シアル事實ニ付先方ノ原案ニモ理由アルモ其ノ他ノ事項ニ付利權破棄ハ餘リニ制裁大ナリ此等ハ北辰會修正希望ノ如クスルヲ可トス

第四十一條 北辰會ハ削除ヲ希望シ居ルモ本條ハ前條ト相對的ノモノナレハ勞農側ノ應諾ヲ得ルハ困難ナラム

第四十二條 異議ナシ

第四十三條 北辰會修正希望アルモ眞ニ先方ニ屬スル財産ニ對シテハ

1-1968

相當ノ使用料ヲ支拂フ事ハ尤モナリ無料ト爲ハ爲シ難カ  
ル可シ

第四十四條

異議ナシ

第四十五條

北辰會修正希望ニ全意

第四十六條

異議ナシ

第四十七條

異議ナシ

別ニ新タニ一條ヲ設ケ左記ノ意味ヲ追加スルコト

本利權契約ニ於テハ特ニ規定ナキ利權者ノ諸特權ニ對シテハ之カ許可  
及經營ニ對シ一切ノ手数料課稅ヲ免除スルノ規約ヲ一條トシテ挿入シ  
置クヲ要ス又北辰會希望追加條文挿入ニ關シテハ全意ナリ

又本利權契約ニ規定セラルヘキ報償特許料、税金、公課、保險料、其  
ノ他利權者ノ一切ノ負擔ノ總額ハ議定書乙第七項ニ基キ事業ノ有利的  
經營ヲ不可能ナラシムル如キ事無カルヘキヲ要シ此點ニ悖ル先方提案  
ハ承認スルノ限ニアラスコノ點ハ大ニ注意ヲ要スル所トス

(終)

MT 1710372



不調者、利益を此の如く進行せしむるに不利ありしを以て之を修正す

株式会社北辰會  
電話 大手五三四三番

露國ヨリ提出ノ契約草案ニ對スル修正希望事項

第一條 本條ニ試掘并ニ鑛業ヲ行フノ權利ヲ許與スルコトヲ規定ス

ルモ其附帶事業タル化學工業、農林業、運送業等ヲ行ヒ得ルノ規

定ナシ。本條ガ總則的規定ナル關係上此等ヲ列舉スルノ要アリ

第二條 本條ヲ左ノ如ク修正

本契約中別段ノ規定ナキ限り利權者ハ現行ノ法律並ニ法律ニ基ク

官憲ノ命令處分ヲ遵守スヘシ

政府ハ將來利權者ノ權利ヲ侵害又ハ制限スルガ如キ立法又ハ行政

處分ヲ爲ササルモノトス

第三條 本條末尾

「但法人ノ計算公告ニ關スル云々以下」ノ字句ハ炭田ノ契約案ニ

ハ之レ無キヲ以テ削除ノコト

株式会社北辰會  
電話 大手五三四三番

MT 1710372 10

水ニ在リ

第四條 第二項ニ自然腐朽又ハ廢物等ニ對スル處分權ヲモ規定シ置

クコト

第五條 本條ヲ左ノ如ク修正

第一項ノ利權者ノ企業ヲ組成スル財産ハ如何ナル場合ト雖モ之ヲ

沒取、徵發其他強制處分ノ目的ト爲スコトヲ得ス

但シ以下削除

第三、三項ハ第二條ト重複ノ嫌アリ削除ス

第六條 異議ナシ

第七條 本條所定ノ作業監査官ノ監査ノ目的、監査機關ノ性質ヲ明

示シテ置クコト(本條削除ヲ希望ス)

第八條 本條所定ノ政府ノ派遣スル地質學者ノ作業研究モ利權者ノ

作業ニ支障ヲ來サマル限り之ヲ認容シ又高等工業學校學生及卒業

者ハ無給實習セシムルコト

MT 1710372 11

1-1968

0012

第九條 異議ナシ

第十條 異議ナシ

本條第三項所定ノ油田地區ノ劃定并ニ其標柱ノ建設ハ契約署名後最近ノ夏期内ニ於テ政府之ヲ行フトアルモ之ヲ双方立會ノ上之ヲ行フト修正

第十一條 本條第三項所定ノ油田地區ノ劃定并ニ其標柱ノ建設ハ契約署名後最近ノ夏期内ニ於テ政府之ヲ行フトアルモ之ヲ双方立會ノ上之ヲ行フト修正

第四項ニハ財産引渡及鑛區設定作業ニ要スル出費ハ全部利權者ノ負擔トストアルモ其支出中政府委員并ニ其隨員ニ關スル費用ハ政府ノ負擔トスルコト

第十二條 本條ヲ左ノ如ク修正ノコト

政府ハ利權者ニ對シ本契約所定ノ條件ニ依リ十ヶ年ノ期間北樺太東海岸ニ於テ利權者ノ撰定セル復數ノ個所ニ於テ面積一千平方露里ニ亘ル地域ニ於テ石油及其附隨物ニ關シ調査試掘ヲ爲スノ特權ヲ許與ス

三

MT 1710372

前項ノ地域ノ撰定ハ其契約カ效力ヲ生シタル日ヨリ一ヶ年内ニ爲サルベキモノトシ其境界ハ本契約ノ添付スヘキ地圖ニ記載シ本契約ト分割スヘカラサル契約ノ一部トナス

第十三條

第十四條

兩條ヲ一條トシ左ノ如ク修正ノコト

利權者ハ前條ノ地域内ニ於テ試掘ヲ行ヒ工業的價值ヲ有スルモノト認メラレタルトキハ任意ニ其區域ヲ確定シ地方監督官ニ申告シ双方立會ノ上營業鑛區ト同一方法ヲ以テ其鑛區ヲ設定スルモノトス

右地區カ工業的價值ナキモノト認メラレタル場合ハ十ヶ年以内ニ於テ政府ノ處分ニ委スモノトス

第十五條 本條第一項所定ノ極東鑛山署カ發布スル地中伏在ノ原油

四

MT 1710372

東京市豊町區有樂町一丁目一番地有樂館内  
株式会社北辰會  
電話 大手五三四三番

黄三子也

保護ニ關スル專問的規定ヲ遵守シテ云々トアルヲ「遵守スベキモノトス」ト訂正

第十六條 本條第二項所定ノ壹千平方露里ノ試掘區ノ測量期間ヲ三年トアルヲ五年トスルコト

第十七條 本條ヲ左ノ如ク修正  
本契約期限ハ其效力發生日（一九二五年中ニ締結ヲ前提トス）ヨリ開始セラレ一九七一年六月末日ヲ以テ終了スルモノトス

效力發生日トハO.C.P. 國民委員會ノ代表者及利權者ノ代表者カ契約ニ署名シタル日ヲ云フ

前項所定期限前當事者ノ協定ニヨリ右期限ヲ延長スルコトヲ得ルモノトス

第十八條 本條ヲ左ノ如ク修正  
利權料率

五

MT 1710372 14

東京市豊町區有樂町一丁目一番地有樂館内  
株式会社北辰會  
電話 大手五三四三番

拾萬屯迄ハ其五%、壹萬屯ヲ増ス毎ニ半ヲ増率シ五拾萬屯ニ至ツテ十五%トス

噴油ニ關シテハ一晝夜ノ湧出量五十屯以上六十屯ノ場合ヲ二十%トシ十屯ヲ増ス毎ニ五%増率シ百屯以上ニ至ツテ四十五%トスルモノトス

利權料ハ營業年度ノ終リノ日ヨリ三ヶ月以内ニ利權者之ヲ支拂フ利權者ハ自個ノ撰擇ニ依リ利權料ヲ現品又ハ金員ヲ以テ支拂フコトヲ得、利權者ハ自己ノ撰擇ヲ各營業年度ヨリ三ヶ月以前ニ政府ニ通告スル義務アリ現品ヲ以テ利權料ヲ支拂フ場合ハタンク渡トシ其ヨリ政府指定ノ場所迄送油費并ニ運賃等ハ實費トシ利權料ヨリ之ヲ差引クモノトス相當金額ヲ以テ利權料ヲ算定スル場合ノ原油價格ハ山元原價ニ依ル支拂場所ハ利權者ノ選擇ニヨリ亞港又ハ浦港トス

六

MT 1710372 15

1-1968

0014





第二十二條  
第二十三條

第二十三條  
第二十四條

包合セシムルコト

水及水力ノ利用ハ無料無償使用トスルコト

本條第二項ニハ日本人ニ對シテモ労働法ヲ適用スルガ如ク規定スルモ除外例ヲ設クルコト、シタシ、尙第三項所定ノ社會

東京市豊島区有樂町一丁目一番地有樂館内  
株式會社北辰會  
電話大手五三四三番

ニ包合セシムルコト

第二十五條 送油管敷設ニ關シ陸上ハ勿論領海内ニ於テ之ヲ裝備スルニ當リ合議ノ結果ニヨルコトナク單ニ利權者ノ申請ヲ俟ツテ政府之ヲ認可スルコト、シ其際手数料ヲ課セザルコト

政府所屬ノ原油ヲ送油スル場合ニハ協定料金ニヨルモノトス

第二十六條 異議ナシ

第二十七條 水及水力ノ利用ハ無料無償使用トスルコト

第二十八條 本條所定ノ浚渫作業ヲ行フニ當リ之カ手續等ハ無料ノコト

第二十九條 本條所定ノ森林伐採ハ凡テノ場合無償伐採トスルコト之レガ實行ニ際シテ其手續モ無料タラシムルコト

第三十條 本條第二項ニハ日本人ニ對シテモ労働法ヲ適用スルガ如ク規定スルモ除外例ヲ設クルコト、シタシ、尙第三項所定ノ社會

九

東京市豊島区有樂町一丁目一番地有樂館内  
株式會社北辰會  
電話大手五三四三番

保險ノ掛金ハ低率ナラシムルコト

第三十一條 本條所定ノ労働者并ニ従業員ノ誘致割合ハ單ニ労働者階級ニ限り専門家（事務員、技術員）ニ及ホサマルベキコト

尙本條末尾ノ（一）及（二）ニ記載セラレタル外國労働者及従業員ノ割合ハ漸次遞減セラルヘク又三年ヲ經過シテ再審スルモノトス」ノ字句ヲ削除スルコト労働者ハ日本人七割トスルコト（極東ニ三千ノ失業者アリ皆浮浪ノ徒ナリ）

第三十二條 本條所定ノ旅券手續ノ件ハ簡易ノ手續ナラシムル様技術的ニ互リテ規定スルノ要アリ

第三十三條 本條所定ノ電話線架設ノ件モ架設區域カ利權區域ノ内外タルヲ問ハス其架設又ハ使用スルニ當リ一切無料タルコトヲ明記シ置クノ要アリ

第三十四條 缺（無線電信ニ關スル規定）

包合セシムルコト

水及水力ノ利用ハ無料無償使用トスルコト

MT 1710372

19

MT 1710372

18

1-1968

0016

東京市麹町區有樂町一丁目一番地有樂館内  
株式會社北辰會  
電話大手五三四三番

以ニテ

ニ包含セシムルコト  
第二十五條 送油管敷設ニ關シ陸上ハ勿論領海内ニ於テ之ヲ裝備スルニ當リ合議ノ結果ニヨルコトナク單ニ利權者ノ申請ヲ俟ツテ政府之ヲ認可スルコト、シ其際手数料ヲ課セザルコト  
政府所屬ノ原油ヲ送油スル場合ニハ協定料金ニヨルモノトス

第二十七條 漁業ニ對シ鎖毒ヲ及ホスト雖モ補償ノ責ナキコトヲ規定シ置クコト

ハ無料ノコト

此項は...  
代表者...  
規定スル...

第二十九條 本條所定ノ森林伐採ハ凡テノ場合無償伐採トスルコト之レガ實行ニ際シテ其手續モ無料タラシムルコト  
第三十條 本條第二項ニハ日本人ニ對シテモ勞働法ヲ適用スルガ如ク規定スルモ除外例ヲ設クルコト、シタシ、尙第三項所定ノ社會

九

東京市麹町區有樂町一丁目一番地有樂館内  
株式會社北辰會  
手五三四三番

第三十一條 本條第二項第三項ヲ左ノ如ク修正ス  
(一)項及(二)項ニ記載セラレタル割合ハ若シ極東勞働支部カ利權者ノ要求ニ依リ000P市民中ヨリ當該人員ノ勞働力ヲ提供スルコト不能ノ場合ハ利權者ハ必要ニ依リ外國勞働者及従業員ヲ自己ノ見込ノ數ダケ採用スル權利ヲ有ス

ニ勞働者  
コト  
業員ノ割  
トス  
東ニ三千

分...  
ト...  
ト...

ノ失業者アリ皆浮浪ノ徒ナリ  
第三十二條 本條所定ノ旅券手續ノ件ハ簡易ノ手續ナラシムル様技術的ニ互リテ規定スルノ要アリ  
第三十三條 本條所定ノ電話線架設ノ件モ架設區域カ利權區域ノ内外タルヲ問ハス其架設又ハ使用スルニ當リ一切無料タルコトヲ明記シ置クノ要アリ  
第三十四條 缺(無線電信ニ關スル規定)

一〇

MT 1710372

19

MT 1710372

18

1-1968

東京市豊島区有楽町一丁目一番地(有楽館内)  
株式会社北辰會  
電話 大手五三四三番

名ニ付シ

名ニ付シ

第三十五條 本條第二項ニ船舶一寄港ノ場合ニ豫メ交通署ノ同意且ツ最寄税關場所ニ於テ検査ヲ受クヘキコトヲ規定シアルモ右ハ實際上不便ノ點多キヲ以テ場合ニヨリテハ目的地ニ直行シ當該手續ハ事後ニスルモ可ナルカ如クスルコト

第三項所定ノ船舶使用目的範圍ヲ可成擴張スルコト例ヘバ従業員家族、並ニ其家具什器、其他一般便乗者ヲモ輸送シ得ル如クスルコト

第三十六條 本條第三項所定ノ利權者ガ築港シタル港灣ノ利用ノコトニ就テハ利權者ハ政府ヨリ何等ノ制限ヲ受ケザルコト

第三十七條 本條ヲ削除ノコト

第三十八條 本條ヲ左ノ如ク修正

利權期限滿了ノ時利權事業ハ其建造物、完成セル組織、設備ト共ニ其當時ノ現狀ノ儘左記條件ニヨリ利權者ヨリ政府ニ引渡サルベ

東京市豊島区有楽町一丁目一番地(有楽館内)  
株式会社北辰會  
電話 大手五三四三番

キモノトス

一、原價償却ノモノハ其儘政府ノ有ニ歸ス

二、原價償却未済ノモノハ其殘額ヲ政府ヨリ利權者ニ支拂フモノトス

貯藏材料、船舶解、家具、什器、俱樂部用品、帳簿、事務用品、食料、従業員并ニ労働者ノ供給品及原油已製プロダクション、半製品、有價證券、現金其他流動資産、等ハ利權者ノ所有ナリトス

利權者ハ前記ノモノヲ利權期間滿了後一ケ年内ニ利權地ヨリ搬出スルモノトス但シ利權地ニ於テ處分スルヲ妨ケス

利權者ハ本條ノ規定ニ從ヒ利權期限滿了ノ日ヨリ三ヶ月以内ニ事業ヲ政府ニ引渡スベシ而テ之ノ期間ニ利權者ハ政府トノ全計算ヲ終ヘサルヘカラス以下削除

第三十九條 異議ナシ

MT 1710372

MT 1710372

1-1968



東京市豊島区有樂町一丁目一番地有樂館内  
株式會社北辰會  
電話 大手五三四三番

第四十條 本條ハ左ノ如ク修正  
利權者ガOGGP裁判所又ハ外國裁判所ヨリ破産ノ宣告ヲ受ケ其  
效力ガ確定シタルトキハ政府ハ期間中ト雖モ契約ヲ破棄スルコト  
ヲ得

政府ハ利權者カ本契約第十五條、第十八條及ヒ第二十二條ノ條件  
ニ違反シタルトキハ損害ノ賠償ノ請求ヲナスモノトス

第四十一條 削除  
第四十二條 異議ナシ  
第四十三條 本條所定ノ政府財産ニ對スル使用料ハ無料若クハ低率  
トスルコト

第四十四條 異議ナシ  
第四十五條 本條所定ノ諸印紙税ノ如キハ凡テ國税、地方税等ヲ單  
一税トスル場合ニハ其レニ包含セシムルコト

MT 1710372

水産部

第四十六條 異議ナシ  
第四十七條 異議ナシ  
尙ホ本草案中ニハ水面ノ利用并ニ労働者并ニ従業員ノ食用ニ供スル  
爲メノ漁撈等ニ關スル規定ナシ別ニ一ケ條設クルヲ要ス

東京市豊島区有樂町一丁目一番地有樂館内  
株式會社北辰會  
電話 大手五三四三番

MT 1710372

1-1968

00:19

大正  
十四年

大正十四年四月二十日

歐米局長

第一課

東京市麹町區有樂町二丁目一番地(有樂館)

株式會社

北

辰

電話大手五三四三番

手紙 山一 株 債 約 2  
關之 希 望 系 預 (中 里 代 表 司 利 權 委 員 會 長)  
控 心 也 (一) 向 希 望 系 上 之 印 進 行 申 請 申 請 書

文 治 石 田

有 名

MT 1710372 24

1-1968

0020

利権委員分へ、  
七月廿七日提出

東京市豊町區有樂町一丁目一番地(本館内)  
株式会社北辰會  
電話大手五三四三番

利権契約ニ關スル希望

A、北樺太ノ如キ僻陬ノ地ニ於テ石油開發事業ノ遂行上當然伴フベキ多大ノ困難ニ鑑ミ會社企業ノ基礎ヲ堅實ナラシメ事業ヲ助成スベキ各種ノ特典並ニ免除ニ依リ保護セラル、ニアラザレハ收益的經營ヲ可能ナラシムル能ハズ依テ先ツ此點ニ關シ「ソウイエト」社會主義共和國聯邦政府ノ深甚且ツ表明ナル考慮ヲ切望ス

B、北樺太ト日本トノ地理的接近並ニ該島東海岸ノ現情ニ鑑ミ日本労働者ノ雇傭ハ事業遂行上必要ニシテ且ツ故モ有利ナリ特ニ熱線労働者ニ於テ然リトス故ニ會社ハ「ソウイエト」社會主義共和國聯邦政府ニ於テ會社ノ適當ト認ムル員數ノ日本労働者ヲ日本ノ慣習ニ從ヒ自由ニ使役スルコトヲ許可セラレンコトヲ望ム

交渉經過大要

A、人跡稀薄、氣候峻険、石油事業ノ技術的性質ヲ説明ス

B、日本労働者雇傭ノ困難ニ於テモ技術ヲザルベキニ付相向ホ日本労働者ヲ雇ル、コトハ、應ノ餘地ナキ等ノ重要法則、報酬、契約期間、外問ヲ求メ

東京市豊町區有樂町一丁目一番地(本館内)  
株式会社北辰會  
電話大手五三四三番

労働露國民其他ノ外國労働者ニ對シテモ當該地方ノ地理的事情並ニ作業統制上ノ困難ニ鑑ミ労働法規ノ適用ヲ相當緩和セラレンコトヲ望ム

C、又々北樺太東海岸ニ於ル海上航海ニ適スル季節並ニ労働時期ノ短期間ナルコトニ鑑ミ會社ハ「ソウイエト」社會主義共和國聯邦政府ニ於テ本企業ニ關スル諸手續等ヲ可及的簡易ナラシメ且ツ敏捷臨機ノ處置ヲ切望ス

希望Aニ關スル事項

(一) 利権期限  
會社ノ基礎ヲ鞏固ナラシメンガ爲ニハ利権期間ノ長期ナル程有利ナルヲ以テ五拾ケ年ト定メラレンコトヲ望ム

(二) 利権地區並ニ會社ノ施設及ビ生産物ニ對スル保護

C、本件ハ當方ノ意ノアセントスル意圖ヲ含メ

(一) 五十年ニ就テハ難色アラス石油事業ノ資金貸付フ理由ヨリ四十年ト

1-1968



労働者國民其他ノ外國労働者ニ對シテモ當該地方ノ地理的事情並ニ作業統制上ノ困難ニ鑑ミ労働法規ノ適用ヲ相當緩和セラレシコトヲ望ム

○、又々北極太東海岸ニ於ル海上航海ニ適スル季節並ニ労働時期ノ短期間ナルコトニ鑑ミ會社ハ「ソウイェト」社會主義共和國聯邦政府ニ於テ本企業ニ關スル諸手續等ヲ可及的簡易ナラシメ且ツ敏捷臨機ノ處置ヲ切望ス

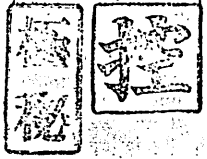
希望Aニ關スル事項

(一) 利権期限  
會社ノ基礎ヲ鞏固ナラシメンガ爲ニハ利権期間ノ長期ナル程有利ナルヲ以テ五拾ケ年ト定メラレンコトヲ望ム

(二) 利権地區並ニ會社ノ施設及ビ生産物ニ對スル保護

株式會社 北辰會

東京市豊町區有樂町一丁目一番地(本館内)  
電話 大手五三四三番



東京ヨリ持參セル契約事項案ハ餘リニ精細ニ過キ交渉上面白カラサル點アルヲ以テ其後慎重審議ノ上別紙ノ如ク修正シ當方希望事項トシテ先方ニ交附シ之ニ依リ審議ヲ進メタリ但シ無線電信ニ關スル事項ハ芳澤カラハン交換公文ニ依リ政府對政府ノ問題ニ屬シ吾々ノ契約事項ノ範圍外ナリト認メ本件ハ大使ト協議ノ上削除スルコト、セリ

B、北極太ト日本トノ地理的接近並ニ該島東海岸ノ現況ニ鑑ミ日本労働者ノ雇傭ハ事業遂行上必要ニシテ且ツ最も有利ナリ特ニ熱線労働者ニ於テ然リトス故ニ會社ハ「ソウイェト」社會主義共和國聯邦政府ニ於テ會社ノ適當ト認ムル員數ノ日本労働者ヲ日本ノ慣習ニ從ヒ自由ニ使役スルコトヲ許可セラレンコトヲ望ム

利権委員會へ  
七月廿日提出

株式會社 北辰會

東京市豊町區有樂町一丁目一番地(本館内)  
電話 大手五三四三番

交渉經過概要

A、人跡稀薄、氣候寒冷、油事業ノ技術的性質ヲ説明ス

B、日本労働者雇傭ノ範圍ニ於テモ技術者ヲザルベキニ付相向ホ日本労働者ニ對シテハ、コトニ關シテ、餘地ナシ等ノ重要法條、條約、契約、外同ヲ求メ

○、本件ハ當方ノ意ノアセントスル意圖ヲ含

(一) 五十年ニ就テハ難色アルテス石油事業ノ資金債權ヲ埋山ヨリ四十年ト



東京市豊町區有樂町一丁目一番地(本館内)  
**株式会社北辰會**  
 電話 大手五三四三番

石油開發事業ノ遂行上當然伴フベ  
 基礎ヲ堅實ナラシメ事業ヲ助成  
 依リ保護セラル、ニアラザレハ收  
 ハズ依テ先ツ此點ニ關シ「ソウイ  
 政府ノ深甚且ツ贊助ナル考慮ヲ切望

並ニ該島東海岸ノ現情ニ鑑ミ日本  
 之要ニシテ且ツ彼等有利ナリ特ニ熱  
 會社ハ「ソウイエト」社會主義共  
 當ト認ムル員數ノ日本労働者ヲ日  
 ルコトヲ許可セラレンコトヲ望ム

東京市豊町區有樂町一丁目一番地(本館内)  
**株式会社北辰會**  
 電話 大手五三四三番

封シテモ當該地方ノ地理的事情  
 労働法規ノ適用ヲ相當緩和セラレ  
 航海ニ適スル季節並ニ労働時期ノ  
 「ソウイエト」社會主義共和團體  
 手續等ヲ可及的簡易ナラシメ且

ニハ利権期間ノ長期ナル様有利  
 コトヲ望ム  
 物ニ對スル保護

交渉經過大要

A、人跡稀薄、氣候峻烈、交通不便、物資缺乏等ノ實情ヲ繰述シ石  
 油事業ノ積極的性質竝日本昨今ノ財界等ヲ遊へ本件主旨ノアル  
 所ヲ説明ス

B、日本労働者雇傭ノ事業遂行上有利ナル所以ヲ説明セルカ先方ハ  
 露國ニ於テモ技術家、熟練労働者等ニシテ使用シ得ルモノ少カ  
 ラザルベキニ付相互ノ比準ハ後日ノ協定ニ俟タムコトヲ主張シ  
 尙ホ日本労働者ヲ日本ノ慣習ニ從ヒ自由ニ使役スルコトニ關シ  
 候ル、コトハ承諾スヘクモナク僅カニ些細ノ事項ニ對シテハ考  
 慮ノ餘地ナキニ非ルハキ意圖ナリ、露國トシテハ本法ハ憲法全  
 等ノ重要法規ナルヲ以テ致方ナカルヘク乃チ賃銀、休日、殘業  
 報酬、契約期限、轉勤其他ノ根本義ニ接觸セサル數項ニ付テ除  
 外内ヲ求メムトシツ、アリ

0、本件ハ富方ノ意ノアル所ヲ了得シ好意ヲ以テ富方ノ希望ヲ容認  
 セントスル意圖ヲ答ヘリ

(一)五十年ニ就テハ難色アルカ如ク先方ハ油田ノ生命ハ約四十年ヲ出  
 テス石油事業ノ資金償却ハ十六、七年ヲ以テスルヲ普通トスルト  
 言フ理由ヨリ四十年トシタキ意圖ラシ

石油開發事業ノ遂行上當然伴フベ  
 業ノ基礎ヲ堅實ナラシメ事業ヲ助成  
 依リ保護セラル、ニアラザレハ收  
 入ハズ依テ先ツ此點ニ關シ「ソウイ  
 政府ノ深甚且ツ賢明ナル考慮ヲ切望

並ニ該島東海岸ノ現情ニ鑑ミ日本  
 必要ニシテ且ツ最モ有利ナリ特ニ該  
 會社ハ「ソウイエト」社會主義共

株式会社北辰會  
 電話 大手五三四三番

ニ對シテモ當該地方ノ地理的事情  
 労働法規ノ適用ヲ相當緩和セラレ  
 航海ニ適スル季節並ニ労働時期ノ  
 「ソウイエト」社會主義共和團體  
 而手續等ヲ可及的簡易ナラシメ且

ニハ利権期間ノ長期ナル程有利  
 コトヲ望ム  
 本報ニ對スル保護

交渉經過大要

A、人跡稀薄、氣候峻烈、交通不便、物資缺乏等ノ實情ヲ繰述シ石  
 油事業ノ投機的性質並日本昨今ノ財界等ヲ逐へ本件主旨ノアル  
 所ヲ説明ス

B、日本労働者雇傭ノ事業遂行上有利ナル所以ヲ説明セルカ先方ハ  
 該國ニ於テモ技術家、熟練労働者等ニシテ使用シ得ルモノ少カ  
 ラザルベキニ付相互ノ比準ハ後日ノ協定ニ俟タムコトヲ主張シ  
 尙ホ日本労働者ヲ日本ノ慣習ニ從ヒ自由ニ使役スルコトニ關シ  
 テハ隔否ヲ與ヘズ  
 労働法ノ適用緩和ニ就テハ極メテ重大ナルヲ以テ苟モ根本ニ

0、本件ハ當方ノ意ノアル所ヲ了得シ好意ヲ以テ當方ノ希望ヲ容認  
 セントスル意旨ヲ答ヘリ

(一)五十年ニ就テハ難色アルカ如ク先方ハ油田ノ生命ハ約四十年ヲ出  
 テス石油事業ノ資金償却ハ十六、七年ヲ以テスルヲ普通トスルト  
 言フ理由ヨリ四十年トシタキ意旨ヲシ

MT

1710372

之レ般上地方ニ於テハ多大ノ時日ト経費トヲ要スルヲ以テナ  
 リ

(3) 右ノ如クシテ試掘シタル地域ヲ油田ニ確定スルコトニ副シテ  
 ハ試掘完了後ニ部分的ニ毎年在北極太地方官憲ニ於テ確定ス  
 ルノ方法ヲ貴政府ニ於テ採ラレンコトヲ望ム

右確定油田ノ割合ニ關シテハ(三) aニ掲ゲタルト同一方法ニ準  
 據セラレンコトヲ望ム

c. 貴政府ニ留保セラレタル地區  
 會社ニ貸與付セラレザル地區ヲ貴政府ニ於テ開掘セラル、場合  
 ハ之ヲ會社ノ請負ニ附セラレンコトヲ望ム之レ相互の利益タル  
 コト厥カナレハナリ

(四) 會社ノ義務  
 a. 鑿井費並ニ新ニ油田地區ニ据付クベキ鑿井機械

四

MT

1710372

利権地區必要ナル施設及ビ企業ニ依リ取得シタル生産物ニ對スル  
 會社ノ権利並ニ利益ノ擁護ニ關シ詳細ナル規定ヲ設ケラレンコト  
 ヲ望ム

(三) 利権地區ノ設定

a. 設定書乙ノ油田地區  
 設定書乙(一)ノ油田地區ハ各四〇「デシヤタン」ノ方形ニ區劃セ  
 ラレンコトヲ要望ス之レ地域ノ大ナル程作業上相互ニ有利ナル  
 ヲ以テナリ

右地區ノ設定ハ速カニ作業ニ着手シ得ル爲ニ此際地圖上ニテ決  
 定セラレンコトヲ望ム

b. 設定書乙(二)ノ若干平方露里ニ亘ル油田地區ノ試掘並ニ設定  
 (1) 若干平方露里ノ地區ハ此際決定セラレンコトヲ望ム  
 (2) 試掘作業完了ニ對シ拾ケ年ノ期限ヲ認容セラレンコトヲ望ム

三

東京市豊島區有樂町一丁目一番地(本館内)  
 株式会社北辰會  
 電話 大手五三四三番

東京市豊島區有樂町一丁目一番地(本館内)  
 株式会社北辰會  
 電話 大手五三四三番

(二) 詳細ナル規定トシテ  
 會社ニ與ヘラルハキ  
 將來第三者ニ權利ヲ  
 企業ニ直接關係ナキ  
 備上止ムヲ得サルモノ  
 ト  
 生産物ニ對シテハ報  
 徴取買上等ヲ爲サ、ル  
 等ニシテ大體ニ於テ  
 (三) a. 先方ニ於テ準備未完

b. (1) 此ノ際決定ニ就テ  
 不允分ナルヲ以テ  
 コトヲ主  
 不可能ニ  
 ハサル爲  
 掘業遂行

(2) 試掘十ヶ年  
 ノ希望

(3) 前半ハ大儲蓄配  
 在北極太官憲ハ先  
 ハ萬般ニ亘リ不便  
 スル理由ヲ説明  
 c. 之ハ政府ノ仕事ナレ  
 ハ先方ノ主張一應  
 ヲ越ヘテ促進セリ

1-1968

0025

東京市豊町區有樂町一丁目一番地(不換館内)

株式會社北辰會

電話大手五三四三番

案ニ依リ收得シタル生産物ニ對スル  
關シ詳細ナル規定ヲ設ケラレンコト

四〇「デシヤナン」ノ方形ニ區劃セ  
域ノ大ナル種作案上相互ニ有利ナル

ニ着手シ得ル爲ニ此際地圖上ニテ決

ニ亘ル油田地區ノ賦掘並ニ設定

際決定セラレンコトヲ望ム

年ノ期限ヲ認容セラレンコトヲ望ム

三



株式會社北辰會

電話大手五三四三番

大ノ時日ト經費トヲ要スルヲ以テナ

地域ヲ油田ニ確定スルコトニ關シテ

毎年在北緯太地方官憲ニ於テ確定ス

株ラレンコトヲ望ム

テハ(三) a ニ掲ゲタルト同一方法ニ準

註

區ヲ實政府ニ於テ開掘セラル、場合  
レンコトヲ望ム之レ相互的利益タル

据付クベキ鑿井機械

四

(二) 詳細ナル規定トシテ當方ノ利益スル所ハ

會社ニ與ハラルハキ利權ハ全部無權利ナルコト

將來第三者ニ權利ヲ與フル如キコトナキコトヲ明カニスルコト

企業ニ直接關係ナキ或ハ公用上須要ナル道路、電信、電話等ノ設

備上止ムヲ得サルモノ、外公用徵收ノ如キコトナキヲ規定スルコ

ト

生産物ニ對シテハ報效油ノ外全部會社ノ自由處分ニ附セラレ徵用

徵收買上等ヲ爲サ、ルコトヲ規定スルコト

等ニシテ大體ニ於テ異議ナキ候儀ナリ

(三) a. 先方ニ於テ準備未完ノ爲メ保留サル

(1) 此ノ際決定ニ就テハ末尾ノ通り請求セルモ是レ亦先方ノ調査

不充分ナルヲ以テ條約規定ノ通り契約後一ケ年内ニ選定セム

コトヲ主張シ當方ハ期テハ明年六月乃至十月ノ間ニ到底調査

不可能ニシテ四百平方英里サハモ至難ナルモ條約上越ハシ能

ハサル爲メ資メテ六百平方英里ハ是非共此際選定セラレハ試

掘進進行上不都合ナル所以ヲ懸陳セルモ決定ニ至ラズ

(2) 試掘十ケ年ニ付テハ與ニ短縮セシメントスル意圖ラシク當方  
ノ希望貫徹ニ向ツテハ一ニ此ノ後ノ折衝ニヨル

(3) 前半ハ大體容認セルモ後半ハ(三)項トノ關係上留保トナル但シ  
在北緯太官憲ハ先方ハハバロフスク嶺山監督署ト主張ス斯テ

ハ萬般ニ亘リ不便極リナキヲ以テ是非共現地ニ於テ解決ヲ要  
スル理由ヲ説明シツ、アリ

c. 之ハ政府ノ仕事ナレハ契約ニ就スハキコトニ非スト主張ス當方  
ハ先方ノ主張一應道理アルモ追加契約トシテモ取極メ度キ希望  
ヲ述ヘ再考ヲ促セリ

(K)	(J)	(I)	(H)	(G)	(F)	(E)	(D)	(C)	(B)	(A)	年産出量一五% 千電以上ノ超 過量ノ
J 十、四〇〇	I 十、三〇〇	H 十、二〇〇	G 十、一〇〇	F 十、〇〇〇	E 十、〇〇〇	D 十、〇〇〇	C 十、七〇〇	B 十、六〇〇	A 十、五〇〇	年産出量一五% 千電以上ノ超 過量ノ	
一五%	一四%	一三%	一二%	一一%	一〇%	九%	八%	七%	六%	年産出量 (單位一〇〇〇電)	
一、四〇〇	一、三〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	以上	
以上	一、四〇〇	一、三〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	迄	

東京市豊町區有樂町一丁目一番地(本館内)  
株式会社北辰會  
電話 大手五三四三番

六

「オハ」ニ於テハ豫想外ノ事故發生セザル限リ一九二六年以降  
毎年増クトモ五井ノ掘鑿ヲ開始シ其他ノ油田地區ニ於テハ油ノ  
蓄積並ニ其他ノ考慮ヨリ判断シ相當井數ヲ掘鑿スル見込ナリ  
鑿井機械ハ現場ニ於テ使用中ノモノ、外新タニ相當數ヲ裝備ス  
ル見込ナリ

報償  
(1) 報償ノ比率ニ對スル會社ノ希望ハ原油年産額五拾萬電迄ハ五  
%トシ五拾萬電以上ノ場合ハ毎拾萬電又ハ其端數ノ超過量ニ  
對シ等%ノ比率ヲ以テ漸次増額スベク斯クシテ總産額等百四  
拾萬電以上ニ達シタル場合ハ其超過量ニ對シ一律ニ等五%ノ  
比率トス  
此關係ヲ明瞭ナラシメンガ爲メ左表ヲ附ス

東京市豊町區有樂町一丁目一番地(本館内)  
株式会社北辰會  
電話 大手五三四三番

五

(四) 〇 大体容認セリ但シ  
七五十萬電ヲベース  
後ニ五十萬電採油  
ガ五乃至一五%ト  
底意ナラント推察  
就テハ從來北京交  
ノ報効率等ノ關係  
當低下セサルハカ

ノ事故發生セザル限リ一九二六年以降  
 ラ開始シ其他ノ油田地區ニ於テハ油ノ  
 判別シ相當井數ヲ掘鑿スル見込ナリ  
 用中ノモノ、外新タニ相當數ヲ裝備ス

五 産ノ希望ハ原油年産額五拾萬屯迄ハ五  
 場合ハ毎拾萬屯又ハ其端數ノ超過量ニ  
 漸次増額スベク斯クシテ總産額増百四  
 場合ハ其超過量ニ對シ一律ニ幣五%ノ  
 ンガ爲メ左表ヲ附ス

東京市豊町區有樂町一丁目一番地「有樂館内」  
 株式会社 北辰會  
 電話 大手五三四三番

年産出量

(單位一〇〇〇屯)

六%	五〇〇	以上	六〇〇	迄
七%	六〇〇	—	七〇〇	
八%	七〇〇	—	八〇〇	
九%	八〇〇	—	九〇〇	
一〇%	九〇〇	—	一〇〇〇	
一一%	一〇〇〇	—	一一〇〇	
一二%	一一〇〇	—	一二〇〇	
一三%	一二〇〇	—	一三〇〇	
一四%	一三〇〇	—	一四〇〇	
一五%	一四〇〇	—	以上	

六

(四) a. 大体容認セリ但シ試掘計畫ハ線ノ協議ヲ要スト主張ス  
 七. 五十萬屯ヲベーストセルニ付テ大ニ異論アリ先方ハ類リニ幾年  
 後ニ五十萬屯採油ノ具體的成算アリヤテ追及シ締約ニハ報効率  
 ガ五乃至一五%ト定リ居ルニ係ラス期限中ハ五%以上拂ハサル  
 愿意ナラント推察セルモノ、如シ  
 就テハ從來北京交渉ノ経緯、シンクレアトノ比較、又ハ自噴井  
 ノ報効率等ノ關係ヨリ種々説明ニ努メタルカ結局右ノ單位ハ相  
 當低下セサルハカラサルモノト認メラル



(A)	産出量ノ	一%	(単位) 一〇〇〇電
(B)	A + 五〇〇	千電以上ノ超過	五〇〇迄
(C)	B + 一〇〇〇	・ 対シ	二%
(D)	B + 一〇〇〇	・ 対シ	三%
(E)	B + 一〇〇〇	・ 対シ	一〇〇〇ー一、五〇〇
(F)	B + 一〇〇〇	・ 対シ	一、五〇〇ー二、五〇〇
(G)	B + 一〇〇〇	・ 対シ	二、五〇〇ー三、五〇〇
(H)	B + 一〇〇〇	・ 対シ	三、五〇〇ー以上

C. 産税及公課等

(1) 會社ハ左表ニ據リ特別ノ納付金ヲ納付スベキヲ以テ現行又ハ將來賦課セラルベキ一切ノ産税公課及ビ各種ノ寄附金ヲ免除セラレンコトヲ望ム

納付金

(単位) 一〇〇〇電

年産出量

株式会社 北辰會  
電話 大手五三四三番

東京市麹町區有樂町一丁目一番地(本館内)

(A)	一晝夜産出量ノ	一〇%	一〇〇以上
(B)	A + 五〇〇	千電以上ノ超過	五〇〇ー一、〇〇〇
(C)	B + 一〇〇〇	・ 対シ	二〇%
(D)	B + 一〇〇〇	・ 対シ	一、〇〇〇ー一、五〇〇
(E)	B + 一〇〇〇	・ 対シ	一、五〇〇ー二、〇〇〇
(F)	B + 一〇〇〇	・ 対シ	二、〇〇〇ー二、五〇〇
(G)	B + 一〇〇〇	・ 対シ	二、五〇〇ー三、〇〇〇
(H)	B + 一〇〇〇	・ 対シ	三、〇〇〇ー以上

(2) 産定産乙(山)ノ自噴井ハ一井一晝夜ノ出油量等百電以上ノモノタルコト、シ報償比率ハ自噴井ノ出油量五百電又ハ夫以下ナルトキハ一日ノ産額ヨリ等百電ヲ控除シタルモノニ對シ等〇%トスベク此量以上ニ産出スル場合ニハ超過量五〇〇電又ハ其端數ニ對シ五%宛ヲ漸次増加シ四五%ヲ最高率トス此關係ヲ明瞭ナラシメン爲メ左表ヲ附ス

報償

一晝夜産出量

(電)

(2) 自噴井ニ關シテ以テ界トシ尙ホトストノ定戦ヲカヲ藉ラサルモ出スルト旨フ條モ明白ナル所以セズ保留ノ産ナ

C. (1) 會社ニ對シテハ對スル課税目及テハ當方提案ノシ此ノ場合例數



東京市豊町區有樂町一丁目一番地(本館内)  
**株式会社北辰會**  
 電話 大手五三四三番

一井一晝夜ノ出油量壹百屯以上ノモノ  
 ハ目噴井ノ出油量五百屯又ハ夫以下ナ  
 リ壹百屯ヲ控除シタルモノニ對シ管  
 出スル場合ニハ超過量五〇〇屯又ハ  
 漸次増加シ四五%ヲ最高率トス  
 シ爲メ左表ヲ附ス

一晝夜產出量  
 (屯)

〇%	一〇〇以上
一五%	五〇〇—一、〇〇〇
二〇%	一、〇〇〇—一、五〇〇
二五%	一、五〇〇—二、〇〇〇
三〇%	二、〇〇〇—二、五〇〇

七

東京市豊町區有樂町一丁目一番地(本館内)  
**株式会社北辰會**  
 電話 大手五三四三番

過量ノ三五% 二、五〇〇—三、〇〇〇  
 四〇% 三、〇〇〇—三、五〇〇  
 四五% 三、五〇〇—以上

納付金ヲ納付スベキヲ以テ現行又ハ  
 切ノ諸税公課及ビ各種ノ寄附金ヲ免除  
 年 產 出 量  
 (單位、一〇〇〇屯)  
 五〇〇迄  
 以上  
 一、〇〇〇—一、五〇〇迄  
 一、五〇〇—二、〇〇〇迄  
 二、〇〇〇—二、五〇〇迄  
 二、五〇〇—三、〇〇〇迄

八

MT 1710372 31

(2) 目噴井ニ關シテハ技術家間ノ審議ヲ經タルモ先方ハ五十屯ヲ  
 以テ界トシ尙ホ機械力ヲ藉ラスシテ出ツルモノハ凡テ目噴井  
 トストノ定額ヲ尙執シ出方ハ百屯説ヲ採返シ亦目噴井ハ機械  
 力ヲ藉ラサルモノニハ相違ナキモ大ナル壓力ヲ以テ多量ニ噴  
 出スルト旨ヲ條件ナカルベカラザルコト北京條約ノ精神ヨリ  
 モ明白ナル所以ヲ説明シタルモ限界數量ノ點ニ付キ意見一致  
 セズ保留ノ儘ナリ

C. (1) 會社ニ對シテハ國營企業ト同等ノ取扱ヲナスベク國營事業ニ  
 對スル課税目及税率ハ追テ通知スルコト、ナレルガ主眼トシ  
 テハ當方提案ノ如キ單一税ノ形ヲ採ルモ差支ナキ旨ヲ答ヘ但  
 シ此ノ場合噸數ト税率ニ付テハ單位ノ變更ヲ要スト答ヘリ

1-1968

0030

防火線設置ノ單純ナル目的並ニ作業上障礙タルベキ樹木ヲ除去  
 センガ爲メ利権地區外ノ森林ヲ無償伐開セシメラレタシ  
 又利権地區内ニ存スル樹木モ無償伐採セシメラレタシ  
 C. 會社ハ必要ニ應ジ北極太東海岸ニ於テ築港シ又企業上必要ナル  
 交通線ヲ開拓スル爲メ河湖其他水路浚渫ノ特權ヲ附與セラレン  
 コトヲ望ム  
 d. 會社ノ使用船ハ北極太東海岸ニ於テ企業上必要ナル如何ナル地  
 點ニモ寄航スルコトヲ得セシメラレンコトヲ望ム  
 e. 會社ハ自己ノ施設ヲ利用スル附帶學業並ニ従業員ニ對スル日用  
 品ノ供給及慰安學業ヲ望ミ得ンコトヲ望ム  
 f. 現ニ存在シ且ツ使用シツ、アル電話線ヲ維持スル以外ニ各作業  
 地圍、作業地ト出張以其他必要ナル場所間並ニ作業地内ニ於ケ  
 ル施設物間ヲ聯絡スル電話線ヲ架設シ且ツ使用スルコトヲ許容

東京市豊町區有樂町一丁目一番地「有樂館内」  
 株式會社北辰會  
 電話 大手五三四三番

① 〇十一、五〇〇 以上ノ超過 四% 一、五〇〇一ニ、〇〇〇  
 掛ニ、〇〇〇  
 ② 〇十二、〇〇〇 五% 三、〇〇〇一以上  
 (2) 従業員(勞働者ヲ含ム)ニ對スル諸課税ハ特ニ輕減セラレン  
 コトヲ望ム  
 ④ 附帶權利  
 a. 利権地區外ノ地域及水面ヲ企業上必要ナル工作物及ヒ其他ノ工  
 事ニ無償ニテ使用シ並ニ又土砂ノ無償採取ヲ許容セラレンコト  
 ヲ望ム  
 e. 利権地區外ニ於テ別紙計畫ニ基ク會社ノ工業上ノ需要ノ爲メ備  
 林ヲ保存シ及ビ其樹木ヲ特別廉價ヲ以テ會社ニ賣却セラレンコ  
 トヲ望ム

東京市豊町區有樂町一丁目一番地「有樂館内」  
 株式會社北辰會  
 電話 大手五三四三番

九

容認  
 乘セシメ執  
 ル處先方ハ  
 ノモ含ムモノト  
 但シ現期ヨリ石油  
 單ニ石油トセス此  
 セントス

④ 左ノ如ク大体容認セ  
 a. 共利権地區外ノ  
 c. d. 容認  
 e. 一目已ノ施

(2) 本件ニ付テハ各  
 へリ  
 又所得税ハ月額

1-1968

東京市豊町區有樂町一丁目一番地「有樂館内」  
**株式会社北辰會**  
 電話大手五三四三番

過 四% 一五〇〇一ニ〇〇〇  
 五% ニ〇〇〇一以上

ニ對スル諸課税ハ特ニ輕減セラレン  
 企業上必要ナル工作物及ヒ其他ノ工  
 土砂ノ無償採取ヲ許容セラレンコト  
 ニ基ク會社ノ企業上ノ需要ノ爲メ備  
 別廉價ヲ以テ會社ニ賣却セラレンコ

九

東京市豊町區有樂町一丁目一番地「有樂館内」  
**株式会社北辰會**  
 電話大手五三四三番

並ニ作業上障礙タルベキ樹木ヲ除去  
 林ヲ無償伐採セシメラレタシ  
 無償伐採セシメラレタシ  
 其他水路浚渫ノ特權ヲ附與セラレン  
 岸ニ於テ企業上必要ナル如何ナル地  
 岸ニ於テ企業上必要ナル如何ナル地  
 附帶事業並ニ従業員ニ對スル日用  
 需品ヲ供給スルコトヲ望ム  
 電話線ヲ維持スル以外ニ各作業  
 必要ナル商以間並ニ作業地内ニ於ケ  
 諸設備ヲ設置シ且ツ使用スルコトヲ許容

一〇

(2) 本件ニ付テハ各自ノ携帶品ノ如キハ(日用品)課税セスト云  
 ヘリ  
 又所得税ハ月額七十五留以下ニ對シテ課セスト云ヘリ

左ノ如ク大体容認セルモ監督官廳ノ許可ヲ要スト云ヘリ  
 a. 公共利権地區外ノ樹木伐採ガ有償ナリトセル外提案ヲ容ル  
 c. d. 容認  
 e. 「自己ノ施設ヲ利用スル附帶事業」トハ假令ハ會社ノ汽船ニ便

乗セシノ軌道ヲ利用シ又ハ剩餘電力ノ供給等ヲ意味スルモノナ  
 ル處先方ハ獨リ右ニヨラス石油ガスヨリ石油ヲ採取スル如キモ  
 ノモ含ムモノト解シ居レリ共ニ差支ナキ意圖ナリ  
 但シ瓦斯ヨリ石油ヲ採取スル如キハ別ノ利益ナリトシテ  
 單ニ石油トセス此等ヲ並記セハ可ナリト言フヲ以テ其ノ通りニ  
 セントス  
 容認

1-1968

0032

セラレンコトヲ望ム

希望Bニ屬スル事項

日本ノ慣習ニ關スル件ハ追テ別冊トシテ提出スベシ

希望Cニ屬スル事項

(一) 企業ニ要シヌハ企業ニ依リ收得シタル物件物資及ビ生産物ノ輸出

北極太東海岸ノ貿易ニ關シ物件、物資、生産物ノ輸出入ニ制限ヲ

付セズ且ツ輸入及ビ輸出ニ關スル諸手續ハ之ヲ省略シ單ニ在日本

並ニ作業地駐在ノ當該官憲ニ届出ヲナスニ止メラレンコトヲ望ム

(企業ニ要スル物件物資ノ品目表ハ追テ別冊トシテ提出スベシ)

(二) 従業員ノ該島出入並ニ島内ニ於ケル移動

會社ハ故モ迅速ニ出入移動ノ目的ヲ達成センガ爲メ日本及ビ作業

東京市豊島區石堤町一丁目一番地(本館内)  
株式會社 北辰會  
電話 大手五三四三番

東京市豊島區石堤町一丁目一番地(本館内)  
株式會社 北辰會  
電話 大手五三四三番

地方駐在當該官憲ニ於テ之ガ取扱ヲ簡捷ニセラレンコトヲ望ム  
(三) 諸般作業ノ實行

a. 測量ニ關スル技術上ノ事項ハ會社ノ任意ニ委セラレンコトヲ望ム

b. 地質調査、測量、諸般ノ工事、建築物及ビ前各項ニ關ゲタルモ

ノ以外ノ作業ニ關シ當該官憲ノ認許ヲ得ルノ要アルトキハ作業

地駐在ノ官憲ニ届出テ且ニ認可セラル、種取扱ハレンコトヲ望ム

油田基盤目區劃ノ方法

基盤トナルベキ坑井ヲ定メ、其坑井ヲ中心點トシ其一邊ヲ地球ノ南  
北線ト併行スル正方形ヲ設定ス  
此基準正方形ヲ日本側ニ貸付セラルベキ方形トナシ凡テノ他ノ方形

(四) 當方勞務規則、扶助  
具體的對策ニ入ラズ

(一) 大体容認、但シ商  
ベシ然ラザル間ハ

(二) 右同、當方ハ旅行  
插手額ヲナスコト

復滞在共一  
(三) a. 技術上ノ

内容

1-1968

東京市豊町區有樂町一丁目一番地「森美術館内」  
株式会社 北辰會  
電話 大手五三四三番

加册トシテ提出スベシ

取得シタル物件物資及ビ生産物ノ輸出  
物件、物資、生産物ノ輸出入ニ制限ヲ  
課スル諸手續ハ之ヲ省略シ單ニ在日本  
一届出ヲナスニ止メラレンコトヲ望ム  
品目表ハ退テ別册トシテ提出スベシ  
於ケル移動  
目的ヲ達成センガ爲メ日本及ビ作業

東京市豊町區有樂町一丁目一番地「森美術館内」  
株式会社 北辰會  
電話 大手五三四三番

取扱ヲ簡捷ニセラレンコトヲ望ム

公ハ會社ノ任意ニ委セラレンコトヲ望  
工學、建築物及ビ前各項ニ掲ゲタルモ  
自恣ノ認許ヲ得ルノ要アルトキハ作業  
一認可セラル、取扱ハレンコトヲ望

坑井ヲ中心點トシ其一邊ヲ地球ノ南  
ニシテラレベキ方形トナシ凡テ他ノ方形

MT 1710372

(B) 當方勞務規則、扶助規則等ハ英譯ノ上先方ニ交付シ置ケリ何レモ  
具體的討論ニ入ラズ

- (C) 大体容認、但シ商務官問題ガ解決セバ最モ迅速ニ手續ガ行ハル  
ベシ然ラザル間ハハバロフスク官憲ニ手續ヲ要スト云ヘリ  
(一) 企業ニ要スル物件物資ノ品目表ハ英譯シテ先方ニ交付セリ  
(二) 右同、當方ハ旅行免狀、証券等各人毎トセス人名簿ヲ作製シ一  
括手續ヲナスコトヲ主張シ先方ハ現地ニ於テ諸所ニ分散セス往  
復滞在共一團トナルモノハ差支ナシト答フ  
(三) 技術上ノ件ハ前以テ協議ヲ要スト先方主張ス

東京市豊町區有樂町一丁目一番地(本館内)  
**株式會社北辰會**  
 電話 大手五三四三番

ノ位置ヲ決定スルコト  
 但シ全地積ヲ分割シ端數ノ區域ヲ生シタルトキハ適當ニ按配スルコト  
 基點トナルヘキ坑井并ニ地敷ヲ測量決定スベキ期日次ノ如シ  
 測量決定スベキ最終期日  
 油田名稱

オ	ハ油田	純式第一號井	千九百二十六年六月十日	
エ	ハ	ピ油田	甲上總第一號井 乙全 第三號井	千九百二十七年九月十日
ビ	リ	ツン油田	上總第一號井	千九百二十七年九月十日
ヌ	ト	ーウ油田	甲口式第一號井 乙上總第一號井	千九百二十六年九月十日
ナ	ヤ	イオ全	純式第一號井	千九百二十八年九月十日
ヌ	イ	オ全	純式第一號井	全

一三

MT 1710372 37

東京市豊町區有樂町一丁目一番地(本館内)  
**株式會社北辰會**  
 電話 大手五三四三番

ウイグレッツク油田 上總第二號井 千九百二十七年九月十日  
 カタングリ全 純式第一號井 千九百二十六年九月十日  
 一千平方露里ノ試掘地敷選定  
 左記各地方ニ於テ會社ガ任意選定スベキ一千平方露里ノ地敷ニ於テ  
 調査試掘スルコト

記

一、オハ地方  
 一、エハビ地方  
 一、サボ川ヨリ南方ヘ京ロマイ、ピリツン、オスソイ、ヌトウ、ゴロ  
 マイ、バツターンノ各地方ヲ過リダーギー川ニ至ル地域  
 一、ウエニ地方ヨリ南方ヘヌイウオ、ウイグレッツク地方ヲ過リカタン

一四

MT 1710372 38

1-1968

0035

東京市豊町區有樂町一丁目一番地(本館内)  
株式會社北辰會  
電話 大手五三四三番

グリ地方ニ至ル地域

一、ルンスキー地方

一、ナンビー地方

一、ウエンゲリー川ヨリランゲリー川ニ至ル地方

右ノ内左記約六百平方露里ノ地域(別紙圖面ニテ示ス)ハ此際決定シ殘餘ノ約四百平方露里ハ明年再精査ノ上決定スルコト

記

一、オハ地方 約五十五平方露里

一、エハビ全 約五十八

一、クイドラニ川ヨリ南方ヘ約三百三十五平方露里

一、ハンツィヤ川ニ至ル地域

一、ヌイウオ地方ヨリカタン、五十八平方露里

一、グリ地方ニ至ル地域

一五

MT 1710372 39

東京市豊町區有樂町一丁目一番地(本館内)  
株式會社北辰會  
電話 大手五三四三番

一、ルンスキー地方 約百〇八平方露里

合計 約六百十平方露里

一六

MT 1710372 40

1-1968

0036







10812 暗 96.

莫斯科發

本省着 大正六年十月四日午後四時

幣原外務大臣

田中大使

第四六八號(二四)

十、第三十三條ノ露國政府國有財産ノ付  
テハ減價償却ヲ行フニシテ、各方主張ヲ撤  
回シ右ニ對シ、使用期限内中、評價々格ニ對シ  
セシ、使用料ヲ支拂フベク、而シテ之ニ改良又  
大修繕ヲ加ヘ、且、時ハソノ費用ハ原價ヨリ差シ  
引クニトスベキヲ主張シ、且、露國側ニ於テ

MT 1710372 45

同意ニ結局留保

十一、前記中留保ノ問題以外、猶未決ノ問  
題トシテ、(イ)第十條地域問題、(ロ)利權  
ノ設備、(ハ)財産ノ償却方法(新條  
文トシテ規定、等) (ニ)第三十二條第二項  
ノ「利權契約満了ノ際、企業ガ不可  
抗力ノ為メ、第三十一條第一項所定ノ状態  
於テ存存ル場合、利權」ノ現状、儘、企業  
ヲ政府ニ引渡スモ、ト、規定追加ノ  
リ、且、次第、右(イ)ノ問題、付テ、尚本週  
月曜日及水曜日、總委員會ニ於テ行ヒ、

MT 1710372 46

1-1968

0039

上木曜日頃本會議ヲ用キ各未決  
問題ヲ議スル筈  
尚石由側ニアリテハ引續キ委員會ニ於テ  
域問題ノ交渉ヲ行ヒ居ルニ未ダ本會議  
ニ上議ノ運到ス目下懸案前記ニ付  
討案講究中ニ於テ九日頃本會議用  
催ノ豫定

MT 1710372

1-1968

0040

電信課長

大臣

次官

亞細亞  
歐米  
通商

三  
五

幣外務大臣

田中大使

件名	模斯科着
綴込名	十月五日午後〇時三十分 十月六日午前〇時五十分

一

第四六九号ノ一(三) (五日前)

大正四年十月四日 記録係接受

48

條約  
情報  
人事  
會計  
文書  
對支文化

門  
類  
項  
號

岡田修造

中里ヨリ末延ハ  
先月十日以來本會議ハ中歩迄トナリ唯々地城其他  
技術的問題ニ関シ技術會議ヲ續ケ居レリ  
先方ハ目下保留中ノ重要事項ノ外スル當方決定的回  
答ヲ得心限リ幾度會議ヲ開クモ其印非ナレトシ大  
逆ハ本會議ヲ開クコトヲ避ケ居ル状態ニテテ若シ此  
度會議ヲ開クトセバ當方ヨリハ最後案ニ類スル回答

MT 1710372

ラ與ヘラルヲ得ナル状態ニアリ勿論保留中ノ各項ハ大  
部分當方限リテ對案ヲ作成シ得心モ何レモ重要ニシテ  
且交渉ノ點引上相互ニ關係スルモノニテテ豫テ伺ヒ  
置ケル諸問題ニ對シテハ各種御回答ヲ待々居ルモ前夜  
日ヲ空リスルコト能ハラルヲ以テ過日未速日速夜研究  
ヲ續ケ對案作成中ニテ近日大使トモ協議ノ上報告  
ノ心組ナルカ之レ付テモ大至急何分ノ御回答ヲ請フ

49

(續)

MT 1710372

1-1968

0041



示シ何ト無ク魂膽アモノ如ク感也ラシク筋  
 シ萬一右一千平方露里中我方豫定ノ部  
 カ新ニ「スタ」ト「ブ」ニ換ヘラル如キコトアリト  
 モハ我ニトリ大問題トナリ従テ本契約ニ対シ著シ  
 キ影響ヲ来スモノトナルヘン本件ニ対シ更ニ情報  
 ヲ得ルコトニ務ムヘキモ不取敢為念

(注)

1911年11月  
 1911年11月  
 1911年11月

MT 1710372

52

1-1968

0043

12/要再回



機密

要目付了

文書課發送	大正十四年二月 七日發送済	淨書 (清水)	正校 (原稿)	(淨書)
主 任	歐米局長	任 主	歐米局長	(起草大正十四年十一月六日)
機密第	九九〇號	大正	十四年	十一月 七日 附
受 信	海軍省 海軍部 海軍部長	發 信	人名	藤田 龍矢 局長
人 名	高田 勲 三井 銀行 社長	發 信	人名	藤田 龍矢 局長
件 名	北樺太 油田 交渉 関係 件	名 込 綴	人名	文部 省
御参考ノ爲別紙送付ス				
(大正十四年十一月六日 附在 政府 館 來 往 機 密 第 號 寫 並 附 屬 書 通)				
公 信 案	外 務 省			

MT

1710372

54

12/要再回

機密

機密

文書課發送	大正十四年二月 七日發送済	淨書 (清水)	正校 (原稿)	(淨書)
主 任	歐米局長	任 主	歐米局長	(起草大正十四年十一月六日)
機密第	四七七號	大正	十四年	十一月 七日 附
受 信	北樺太 油田 交渉 関係 件	發 信	人名	藤田 龍矢 局長
人 名	高田 勲 三井 銀行 社長	名 込 綴	人名	文部 省
件 名	北樺太 油田 交渉 関係 件	名 込 綴	人名	文部 省
御参考ノ爲別紙送付ス				
(大正十四年十一月六日 附在 政府 館 來 往 機 密 第 號 寫 並 附 屬 書 通)				
公 信 案	外 務 省			

MT

1710372

53

1-1968

0044



支

○  
○  
○

○  
○  
○

○  
○  
○

○  
○  
○

○  
○  
○

○  
○  
○

55

本會

○  
○  
○

○  
○  
○

○  
○  
○

要

○  
○  
○

○  
○  
○

○  
○  
○

MT 1710372

○  
○  
○

MT 1710372

現

ラ與ハナルヲ得ヤル状態アリ勿論留保中ノ条項ハ大  
部分當方限リニテ對案ヲ作成シ得ルモ何レモ重要ニシテ  
且交渉ノ斃引上相互ニ開示スルノ上ラテ豫テ同ヒ  
置ク諸問題ニ對シテハ本會側ヨリ回答ヲ待テ居ル  
日ヲ空レクスト能ハサルヲ以テ連日連夜研究  
シ續ク對案作成中ニテ近日ハ使トモ協議ノ上報告  
ノ心組ナルガ之レ付テモ大至急何分速ク回答ヲ請フ

○  
○  
○

MT 1710372

56

○  
○  
○

1-1968

0045

10880 野村胡堂 著 1915年 東京 岩波書店

謝野野村胡堂 印 大使

以下参考ノトシテ改定ス

(一) 川上ヨソフエ

私的會見ノ結果ニ鑑ミテ

非力ノ態度ハ依然強硬ニ石田問題

ニ對スルハ非力ノ態度ヲ總テノ見ヨリ觀察スルニ飽

ス迄當方ノ利權契約ニ對スル足許ヲ見透カシ

慮シモソノ如クナリ

(二) 印カシトシカ也ニ於テ政府有力者ニ對シテ

MT 1710372 57

勳章ノ付トシテ豫メ仄聞ニ處ニ相立政府側ノ

支持スルモノノ如ク風聞モアリ大カラスク地域内

題ニ未ダ技術會議ノキヲ離シテ既南田田ノ

設定ニ付テモ北京議定書ニ單ニ面積ノミ

テサレテソノ貨物ニ著シク非力ノ豫期ニ及ス

ル形狀ノモノト限リ有望ノ部ナリ

念セシムル様形カモノ如クハヤコトノ方露皇

ニ付テテ依然一團ノモノナリトシ選擇權ニ非力

ナリトシテ四末ニ於テ試掘スルキ豫定地

ノ決定ノ如キモ一旦ハ應諾スルキ形勢トシテ

變ニ調印後ナリトシテ一切議スルコトヲ得ル云

ハ斷今ノ空氣ハ従前ニ比シテ一層強硬ノ態度

要(2)

MT 1710372 58

1-1968

0046

事  
 示し何れ無き魂膽あるに如く感如うに効多  
 し萬一右非平方面路里中我方豫定ノ部分  
 新ニイスタ  
 由敷  
 我ニトリ水向題ニシテ  
 本契約ニ対し著シ  
 キ影響ヲ来スモトナル本件ニ対し  
 情報  
 得ルニトシテ  
 取扱  
 電報  
 事

MT 1710372

1-1968

0047

11048 (暗) 36 ハバロフスク發  
本省着大正十四年十一月十五日午前五二〇

幣原外務大臣 二 轉 總領事

第五二號

組合ハ組合員何々ニ對シ責任ヲ負ハズ  
一林区ノ過失ハ他ニ累ヲ及ボサヌナレバ  
組合名義ニテ契約スルモ差支ナシ寧  
口組合員何々ニ契約シ先方ノ安心出來  
ル様) ビヤ會社ニ於テ保証スル方法  
ヲ講ジテハ如何若シ組合員ニテ責  
任ヲ負フトセバ林区ニ依リ現在及將



例規

束ニ於テ無條件ニテ除外返還シ得  
ルコトヲ信託トス。

MT 1710372

61

MT 1710372

60

1-1968

0048

閣下

一〇二七  
晴五

本府着

大正十四年十一月十日午前五時

幣原外務大臣

二瓶総領事

4

利権

通 14.11.13

第五三號  
林業組合ヨリ成田宛別電第五三號ノ通來電アリ  
タル如左ハ恐ラク往電第二三號ノ通ノ事情ニテ  
露國側ノ手ニ入り組合員ノ間ニ於テサハ互ニ他  
ヲ信用セズ然ル規則違反其ノ他ノ犯則行為ハ勿  
論税金未代金等ノ納附ニ付テサハ連帶責任ヲ同  
避シ居ルニトテ殊方ニ暴露シタル故第ト察セラ  
レ交渉ノ前途ニ不安ヲ禁セズ若シ章ニシテ近ク  
交渉成立シタリトスルモ金々調印ノ場合往電第

五〇號末段ノ如キ問題ヲ生スル虞アルニ付此後  
發電ヲ注意シ且此際是非内部ノ結束ヲ固ムル様  
組合側ニ序詞論相成ル様致シ度シ

MT 1710372

63

MT 1710372

62

1-1968

0049

電信課長 (藤井)

大臣

次官 橋

門
類
項
號

亞細亞 歐通 條約 商米 人情 報事 會計 會社 文書 對支文化

件名
綴込名

莫斯科着

土月十日午後六三一  
大正十四年土月十日午後七〇〇

幣原外務大臣

田中大使

大正十四年五月四日 記録係接受

田中次官

利権會議懸案ノ主ナルモノハ石油ノ部ニ在リテ  
 ハ(一)賦権及及使用权 (二)買上権 (三)地域 (四)報  
 償率並課税及公課ノ諸問題又石炭ノ部ニ在リテ  
 ハ報償率及課税地域並減價銷却ノ諸問題ニシテ  
 之ニ對スル彼我ノ主張ハ尚相當ノ距離アル如  
 我方ニ於テ少クトモ石油ニ付テハ此際契約ノ威  
 立ヲ期スルヲ大局上懸トナスニ於テハ大体左記

伯案

ニ依ルノ外ナキモノト認ム  
 (一)ニ付貴電第三三一號ノ所趣旨ハ我方ノ立場ヨ  
 リスレハ極メテ尤ナル主張ナルモ (二)現存財産  
 ニ關シ先方ハ我々領中ノ措置ガ保障占領ノ効果  
 トシテ当然爲シ得可キ範圍ヲ逸脱セリトノ主張  
 ナラスニ鑑ミ本便抗議ニ對シ先方カ容易ニ容認セ  
 又場合ハ暫ク將來ノ懸案トシ我カ立場ヲ擁護シ  
 置クト共ニ利権契約締結ニ累ヲ及ボスコトナキ標  
 ニシ今社経営ノ實質問題タル使用料ニ付テハ成  
 ル可ク負擔ヲ軽減スル標交渉セシメ萬一應セサ  
 ルハ先方ノ提供スル財産ヲ使用セサル方針ノ  
 下ニ必要ノ規定ヲ設クルコト (四)將來輸入設備

MT 1710372

MT 1710372

スル財産ニ付テハ我方ニ使用及収益ノ實權アリ  
 唯處分權ニ條件アルノミニシテ先方が其ノ所有  
 有)ナリト主張スル所有權モ見方ニ依リテハ先  
 方ノ説明スル如ク單ニメタファイナルノモノニ  
 屬シ要スルニ法学的觀念ノ相違ト稱スルヲ得可  
 ク又實質問題トシテモ利權者ガ起債場合其ノ担  
 保トナルハ擔當利權自体ニシテ其ノ設備財産ノ  
 如キハ重ヲ置クニ足ラサル可ク且先方ニ所有權  
 アリトスルモ利權者ノ財産目錄中ニ(契約案三  
 條参照)之ヲ掲記スルモ差支ナカル可キノミナ  
 ラズ契約案中先方ニ所有權アル旨ノ規定モナキ  
 ニ付萬一第四條ノ削除ヲ先方が肯シゼサル場合

MT 1710372

ニ於テモ之ニ同意スルコト  
 (二)若シ中里ノ交渉行儀ニ於テハ北京條約ノ規定  
 及精神ニ依リ不侵ヨリモ政府ニ對シ直接交渉ス  
 ハキモ已ムヲ得サルバ(a)或程度以上ノ産額ニ  
 對シ若干ノ買上權ヲ認ムルカ(内容ハ追テ中里  
 ヨリ電報スベキ最後案ニテ所承知アリタシ)又  
 (b)契約ノ規定上ハ右以上ノ率ヲ認ムルモ別  
 ニ該權利行使制限ニ関スル何等カノ諒解ヲ取リ  
 置クコト(ツバク)

MT 1710372

1-1968

0051



MT 1710372

69

講スル事

尤モ本月九日「カラハント」會見、際夫レトナシ右風圃ニ就テ  
 治リタルニ條約上ヨリスルモ代表トシテ斯ル事ヲ為シ得可カラ  
 カルヘント答ヘタリ。

(四)ハ要スルニ收益的經營ノ能否ニ關スル處、中里ノ所言  
 ニ徴スルニ先方案ニ依ル時ハ当初ノ豫想ヨリモ負担増加  
 約ニ倍半ト成リ、之レニ北辰會ニ付スル執業權式百考  
 拾萬圓及海軍省關係ノ七拾四萬圓等ヲ計上スル時ハ  
 サトモ当初ノ若干年向ハ到底採算、亦ハ能ナルヤノ趣ニ  
 テ、中里トシテハ發起人側ノ思惑ヲモ氣遣ヒ目下頻ニ  
 苦慮ニ居ル様相ナルガ深慮及公課ニ就テハ先方ニ於テ  
 國內最惠待遇ヲ与ヘ居ルノミナラス、假ニ報償率

MT 1710372

68

門
類
項
號

大臣

電信課長

對支文化 文書 會計 人事 情報 條約 通商 歐亞 亞細亞

お

幣原外務大臣

田中大使

11096 (暗) 202

莫斯利發 奉省着

大正十四年十一月十二日 右九三〇  
三二五

件名
綴込名

改一

第 四 八 〇 号 (一三十一日右)

(三)ニ就テハ(2) 既南油田地区確定ニ就テハ議定書所定ノ  
 範圍ニ於テ一致矣ヲ見出ヌヲ得可ク(6) 試掘区域ノ撰  
 定権者及地域確定ニ就テハ條約ノ明文ニ不拘契約  
 満期前ニ於テ解決ヲ期スルニ於テハ却テ我々ノ最苦痛  
 トス可キ試掘ノ義務問題等ヲ誘發スルノ堪無キニテ  
 カルニ願ヒ契約満期後ニ解決ヲ期スル事、又中里發  
 芽四六九号後段ノ如キ風評表文が果シテ事實ナル場合  
 ニハ甚降嚴重ニ先方ノ不誠實ヲ責メ概宜ノ措置ヲ

1-1968

0052

其他負担額ヲ先方ノ案ニ依ル場合ト虽モ、若シ利権者  
 ニシテ前記ノ如キ特殊ノ負担無キ限リ優ニ採算可能  
 ナル趣ナルトモ、右特殊負担ニ就テハ先方ヲ首肯セシム  
 ルニ至難ナル可キ顧ミ、我方ノ立場ヨリ見テ再三可能ナリ  
 トスル程、先方ヲ譲歩セシムル事ハ到底困難ナリ認メ  
 ラレ、又右特殊負担ト虽モ四五十年ノ長期ニ割当テルハ  
 換算ニ大影響有ル可ト認メラシム、加之元未定結  
 ナルモノハ極メテ「アービトリアリ」ノ事項ニ属スルコトナラズ、石油  
 利権ハ單ニ常利的見地ノヨリ之レヲ見ル事能ハサル  
 可キニ付、結局先方ノ最後ニ譲歩スル莫ク同意スル事、  
 本件交渉ニ就テハ、此ノ上トモ我ニ有利ノ解決ヲ期ス可キモ  
 従来ノ経過並中里等ノ意見ニ徴スルニ結局是以上ノ條件

ニテハ契約締結期日迄ニ解決困難カト豫測セラレ、又此ノ  
 際頓挫セバ後日更ニ有利ナル展開ヲ見難キナリ思考セ  
 ラル、ニ付、事情篤ト御考、應、上、本件ニ付タル政府ノ  
 御方針至急御詮議、上、何カノ御電訓アリ度ニ  
 尚、石炭ノ部ニ就テハ暫ク奥村ノ措置ニ任セ度ク、必要ト  
 認ムル場合ニハ追テ卑見電稟ス可キモ、若シ石油契約  
 不調ノ場合、石油契約調印ヲ差控ヘシメ差支無キナ  
 此ノ際併セテ御電訓アリ度ニ

(終)

要再回

急

機密

秘

文書課長

文書課發送

長檢印

公信案

主 管 歐米局長

任 主 歐米局長

淨書

正校(原稿)

附屬書

機密第一號 大正十四年十一月十日附

受 信 池田海軍軍務局長

發 信 人名 廣田海軍軍務局長

件 名 刺探交際關係

名 込 綴 人名 廣田石田

御參考ノ爲別紙送付ス

(大正十四年十一月十三日附在東京領事館來電) 電報第一號寫字附屬書

別紙(軍方領事館修り等) 附屬書

公 信 案

外 務 省

MT 1710372

72

1-1968

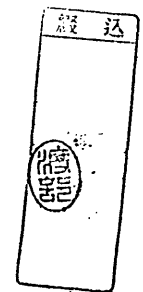
0054

五

東斯科農  
本相着

幣原外務大臣宛

大正十四年十一月十日  
田中大使宛



幣原外務大臣宛  
十一月十日  
幣原外務大臣宛

北洋方  
利権會議懸案ノ主ナルモノハ石油ノ部ニ在リテ  
ハ(一)財産権及使用权(二)買上権(三)地域(四)報  
償率並課税及公課ノ諸問題(五)石炭ノ部ニ在リテ  
ハ報償率及課税地域並減價銷却ノ諸問題ニシテ  
之ニ對スル彼我ノ主張ニハ尙相當ノ距離アル如  
我方ニ於テ少クトモ石油ニ付テハ此際契約ノ成  
立ヲ期スルヲ大局上ニテハ大體允記

MT 1710372 73

ニ依ルノ外ナキモノト認メ  
(一) 賦税及課税ノ標準ニ對シテ先方ハ  
リスレハ極メテ尤ナル主張ナルモ  
ニ關シ先方ハ我々領中ノ措置ガ保障占領ノ効果  
トシテ當然ノ得可キ範圍ヲ逸脱セリトノ主張  
ヲナスニ鑑ミ本便抗議ニ對シ先方ガ容易ニ容認セ  
又場合ハ暫ク時未ノ懸案トシ我々立場ヲ擁護シ  
置クト共ニ利権契約締結ニ累ヲ及スコトナキ標  
ニシテ今社經營ノ實質問題タル使用料ニ付テハ成  
ル可ク負擔ヲ輕減スル標交渉セシメ萬一應ヒサ  
ルハ先方ノ提議スル財産ヲ使用セサル方針ノ  
下ニ必要ノ規定ヲ設クルコト

MT 1710372 74

1-1968

0055



MT

1710372

78

講スル事トモナシト  
 尤モ本月九日カラハニ會見ノ際夫レトナシ右風聞ニ就キ  
 治リタルニ係ル上ヨリスルモ代表トシテ此ル事ヲ爲シ得可カラ  
 カルベント答ヘタリ  
 (四) 要スルニ收益的經營ノ能否ニ關スル處中里人同言  
 ニ徴スルニ係ル案ニ依ル時ニ當初ノ豫想ヨリモ負担増加  
 〇ノ約ニ倍等ト成リ之レニ北辰會ニ付スル執業權試百參  
 拾萬同ニ海軍省關係ノ七拾四萬同等ヲ計上スル外ハ  
 カラトモ當初ノ若干年向ハ到底採算ノ可能ナルヲ一趣ニ  
 示中里トシテハ發起人側ノ思惑ヲモ氣遣ヒ目下頗ニ  
 苦慮ニ居ル様相ナルガ課税及公課ニ就テハ先方ニ於テ  
 國內財政惠待過ヲ与ヘ居ルノミナラス假ニ 報償率

MT

1710372

77

李處長免土月言以電報

三 就テハ既前油田地区確定ニ就テハ議定書所定ノ  
 範圍ニ於テ一致莫ク見出ス得可カシ密試掘区域ノ撰  
 定権者及地域確定ニ就テハ條約ノ明文ニ不拘、契約  
 満期前豫テ解決ヲ期スルニ於テハ却テ裁才ノ最苦痛  
 トス可キ試掘ノ義務問題等ヲ誘發スルノ堪無キニテ  
 此ルニ願ヒ契約満期後ニ解決ヲ期スル事又中里發  
 身中里免後段ノ如ク爾等代表ガ果ニテ事實ナル場合  
 三 其障嚴重ニ先方ノ不誠実ヲ責メ概宜ノ措置ヲ

東中八の早、二十年

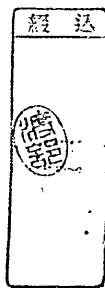
幣原外務大臣

申中大使

11096 (暗) 202

莫斯神發 弁南着

左中里年十月十日石三二五



跡

MT

1710372

79

其他負擔額ヲ先方ノ案ニ依ル場合ト雖モ、若シ利権者  
 ニシテ前記ノ如キ特殊ノ負担無キ限リ、夏ニ採算可能  
 ナル越ナルトモ、右特殊負担ニ就テハ、採算ヲ首肯セシム  
 ルニ至ル可キニ願フ。我方ノ立場ヨリ見テ再ニ可能ナリ  
 ンルニ難ク、先方ヲ譲歩セシムル事ハ到底困難ナリ認メ  
 ン。又右特殊負担ト雖モ四五十年ノ長期ニ割当テル所ハ  
 採算ニ大影響有ル可ト認メラシス。加又元来完結  
 ナルモノ極メテ、アール・リールノ事項ニ属スルノナラス、石油  
 利権ハ單ニ管利の見地、ヨリ之レヲ見ル事能ハサル  
 可キニ付、結局先方ノ最後ニ譲歩スル莫ニ同意スル事。  
 本件交渉ニ就テハ、此ノ上トモ我ニ有利ニ解決ヲ期ス可キモ  
 従来ノ経過並中里等ノ意見ニ倣スルニ結局是以上ノ條件

ニテハ、契約締結期日迄ニ解決困難カト豫測セラレ、又比ノ  
 際頓挫セハ後日更ニ有利ナル展開ヲ見難キナリ思考セ  
 ラル、ニ付、事情篤ト御考。慮、上ニ付、ニ付、政府ノ  
 御方針甚甚御認識、上ニ依リ、御電訓ヲ御覽。  
 尚、右炭ノ部ニ就テハ、暫ク奥村ノ措置ニ任セ度ク、必要ト  
 認ムル場合ニハ、追テ電禀ス可キモ、若シ石油契約  
 不調ノ場合、石油契約周印ヲ差控ヘシメ、差支無キナ  
 此ノ際併セテ御電訓ヲ御覽。

MT

1710372

1-1968

0058



電信課長 藤井

大臣

次官

官帖

亞細亞

歐米

通商

條約

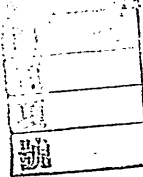
人情

會事

會計

文書

對支文化



岡田外相

件名	
綴込名	

改一

11187 臨時

莫斯科發 吉田四四  
本省着上高年土月言信一〇〇

幣原外務大臣

田中大使

第四八三號(三十二日收)

大正四年十月四日 記録係受

中里より来た

大使ト協議ノ上左記計畫ヲ以テ十月廿日  
最終會議ヲ開ク(然ラズバ一定期限内ニ終  
了ノ見込ナシ)豫定先カ可電所報ノ如ク  
先方ノ意向ハ甚ク強硬ニシテ一部多少ノ  
讓歩ハ見ルルニヤモ其部令ハ最終迄至強ク  
拒メサルヤモ知レザルニ存其ノ時ノ見悟ハ今

日ノ定メ置カザルニカラス尤モ今期延長ハ  
必ズシモ不可能ニ非ザルニク或ハ一旦帰朝  
ノ上會議議。政府側トモ熱後ヲ遂ゲ出  
道スヨト一方ルヤモ知レザルモ其ノ降果シテ  
今日以上ノ緩和セラレタル條件ヲ以テ締結  
ニ得ルヤ歟ル疑ハシク恐クハ昨日ヲ要延ス  
ル文益、不利ノ状況ニ隔ムト考ヘラル、而  
已ナラズ累々延期ヲ豫想スル、於テハ全然一  
致定例ノ態ヲ示サザルヲ得ル事トスルカ  
故ニ最終會議ヲ開クヨトハ無意味トスルニ  
シテ結局今日最終會議ヲ開ク以上ハ決裂  
カ調印カノニ途何レカヲ執ルノ外ナカラン。

MT 1710372

82

MT 1710372

81

1710372

今様留條項ノ各個ニ作研究スルニ所有權  
問題ヲ對政府存留ノ交渉ニ譲リタル今日  
是防上見充實上問題ヲ除キ結局為新  
會社ノ収益的經營カ可能ナリヤ否カヤ  
莫ク依リ最優ノ決心ヲ定ムル中リ時ナキ處  
財産使用料ニ付テハ今尙先方ノ言明セ  
ザル所ナルト一平平方密里ノ試掘區域ハ  
將來如何ナルモノヲ先方が指定スルカ否然不  
明ナキ以上二個ノ確證アリ尤モ得者  
付テハ得者先方ノ申出ニ對シ或ハ日本改  
定トシテモ強硬ナル抗議ノ餘地アリキモ  
先方が此ノ降地域ヲ言明セザル下ニ對シ

MT 1710372

ラニ條項上尙方トシテ抗議ノ餘地ナシ尙  
者ニ對テハ先方ノ要求ヲ強硬ニ要求スル  
理由アリモ依然トシテ的確ナル言明ヲ得ザ  
バ已ムリ得ズ或方對案ヲ以テ折令フノ外  
ナレト雖之サエモ應セズ然モ決裂ヲ避クル  
トスレバ最優ノ場合ハ先方ノ財産ヲ使用  
セザルノ覺悟ヲ以テ進ク外ナカルニ

(續ク)

MT 1710372

1-1968

0060

電信課長



大臣

次官

秘書

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

對支文化

件名	
綴込名	

11184 暗 218 莫斯科  
 本省省有 大正十四年十一月 由 前 二五。

幣外務大臣

田中大使

大正十四年十月四日 記録係接受

第四八二号ノ三(十二日付)  
 而シテ新會社經營ノ具ニ付 当初目論見書ノ經費ト先方原案ニシテ契約ニシテ場合ノ經費トヲ比較スルニ(十月三日電報當時ト多少ノ計算ノ相違アリ)豫算増加トナルモノ産額十萬噸ノ時  
 (一) 労銀増加ニ割トシテ十四万六千円  
 (二) 社会保険料 一三・五%トシテ十一万

MT 1710372 85

八千円  
 (三) 税金 三・八四%トシテ七万六千円  
 (四) 報償先方案トシテ十三万円  
 (五) 印紙税 六千円  
 (六) 火災保険料 一%トシテ三万七千円  
 (七) 財産使用料(假定) 五萬円  
 (八) 露國內出張所費 七万円  
 合計 六十三万二千円(六三二、〇〇〇)ニシテ  
 内報償十一万円及税金二十一万六千円ハ  
 最初ヨリ豫定セシモノナルガ故ニ右ヲ差引  
 テ結局(不明)増加ハ三十万六千円トナリ  
 又右ノ中露國ニ對スル納附金ヲ合算

MT 1710372 86

ASUMI EDUM  
JANUARY

ASUMI EDUM  
JANUARY

スレバ四十一万五千円(四一五〇〇〇)トナルニ  
此ノ負擔ノミニテ収益的經營不可能  
ヲ主張シ先方ノ讓歩ヲ要求スルニ到底  
先方ノ容ル、知ト成ラザルハ從來數回討  
議ニ見ルモ明白ニシテ假令当方目論  
見書書ヲ示シテ具體的ニ説明スルモ  
結局ハ水掛論ニ終ル可キノミナラス  
生産額ノ少キコト又ハ新会社内部  
的負擔ノ過大等ニ依リテ先方ニ對シ  
有力ナル反駁ノ論據ヲ與フル結果ヲ  
見ルハ想像ニ難カラス大体右ノ如キ  
情況ニシテ要スルニ先方主張ヲ讓歩

MT 171037Z 87

ASUMI EDUM  
JANUARY

セシタルニ是レ有效ナル理由ナキヲ以テ假ニ  
最悪ノ場合即チ先方案ヲ以テ調印  
シタル場合ニ当初目論見書ハ立テ方  
ニ從テ經營スルモノトシ果シテ如何ナル  
収入トナルヤヲ計算スルニ第三年目迄ハ  
欠損ト成ルモ其後ニ於テハ略々採算ノ  
見込立ツカ故ニ若シ出来得バ内部的  
負擔ヲ最少限度ニ止メ之ニ依リ生  
産増加ノ方法ヲ講ジ以テ収入増加ヲ  
計ル等或ハ他ノ賢明ナル方法ヲ執ル  
トモバ新会社ノ經營必スシモ困難ニ非  
ズト思考ス右ノ次第ナルヲ以テ最終合

MT 171037Z 88

1-1968

0062

議ヲ開クニ當リ本代表ハ假令如何ニ  
 折衝スルモ先方ノ容ルル如トナラザレバ已ムヲ  
 得ズ最悪ノ場合ト雖モ契約ヲ締結セザ  
 ル可ラズト決心セリ若シ異存アラバ十八日  
 迄ニ回電アリタシ當日回電ナキ場合ニ  
 開シ御承認ヲ得タルモノトシテ会議ヲ進  
 ムベキニ付右様御承知アリタシ以下對  
 案第一第四第一二条ニハ若干重要  
 ノ修正ヲ加ヘ且第一二ニ政府ヨリ引渡  
 サルベキ財産ハ利権者ノ希望スルモノニ  
 シテ將來第三者ノ抗議アル時ハ政府  
 ニ於テ解決スルコト及評價ハ兩者協定ノ  
 上行フコトヲ要求シテ所有權問題ニ干渉セザル  
 (續リ)

MT 1710372

1-1968

0063

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

對支文化

件名	
綴込名	

11219  
日 138  
莫須料度  
十三日 后 三 五 〇  
本省着六十四年七月十五日前五〇日

幣原外務大臣  
田中大使

大正十四年三月四日 記録係接受

第四八三号ノ三 (三) (十二日前)  
第一八條 報償ハ六萬五千噸 (六五〇〇〇) ヨリ初  
メ一萬噸ヲ増ス毎二匁五毛ヲ加フルトトシ  
且納付ハ加可油山 五ト值餘ヲ以テ金納トス  
第一九條 買上ガハ第一案トシテ商除ヲ要求シ  
若シ最後トシテ容認セザルハ第二案トシテ  
噸以上一割以内ニテ對噸以上一割以内ト

MT 171037Z 90

第三案 十萬噸以下五分以上十萬噸以上一  
割五分以内 二十萬噸以上一割五分以内  
トシテ買上ヲ認ムルコト

第二〇條 報償ハ第一案トシテ納付ハ第一條  
報償トシテ

第三〇條 総合保險料ハ之ヲ認ムルニ政府  
ノ病院設備完成スル迄ハ全額十八%ノ  
医療衛生費ニ付スル四、五% (四三) ハ控除ス  
ルコト

第三一條 労働者割合ハ大体ニ於テ原案ヲ  
認ム日本人ノ産痛ヲ容易ナラシム一般労働  
者ノ産痛條件ハ該ノ協定スルコト及本條

MT 171037Z 91

1710372

適用ヲ三年間延期セシムルコト。  
 第三七條 火災保險ノ有案ヲ認ムルモ火災ノ  
 原因ナキモノハ附保物件ヨリ除クコト。  
 第四三條 使用料ハ一割ヲ三分トシ且使用期  
 間中ノ未支拂財産評價ハ毎年逐減スルコト。  
 客認セザレバ一定期ヲ毎年一定金額ヲ納付  
 シ之ニ代ユルコト。  
 其他是方追加提案ノ賠償方即チ利権期間  
 最後ノ五年間ノ設備セルモノニテ減價消却  
 未償ノモノハ政府ノ同意ニテ煉瓦家屋ハ  
 毎年五% 木造家屋機械器具等ハ十%  
 減價消却ヲ爲ス後政府ヨリ利権者ニ賠  
 償スル案ニ對シテハ最後ノ五年間ト限ラズ政府  
 ニ引渡スベキ財産中消却未償ノモノハ五%長  
 期ノ減價消却ヲ以テ計算賠償セシムルコトヲ第一  
 案トシ前記ノ率ヲ引ケルモノヲ第二案トシ何レモ  
 客認セザレバ右原案ノ五年間ヲ十年トス  
 ルコト。次ニ是方追加提案トシテ契約款  
 力發生ト同時ニ政府ノ作業繼續ノ現狀ノ  
 供當該企業ヲ利権者ノ經營ニ參入スルコト  
 ホ一ニ備ヘ依リ引渡セルベキ財産トモ引渡  
 終了ニ對シハ之ヲ使用シ得ルコト。調印後  
 一年ハ改ニ作業ヲ繼續シ居ルモノハ引渡キ作  
 業繼續ヲ委任シ得ルコトヲ要求スルコト。

MT 1710372

適用ヲ三年間延期セシムルコト。  
 第三七條 火災保險ノ有案ヲ認ムルモ火災ノ  
 原因ナキモノハ附保物件ヨリ除クコト。  
 第四三條 使用料ハ一割ヲ三分トシ且使用期  
 間中ノ未支拂財産評價ハ毎年逐減スルコト。  
 客認セザレバ一定期ヲ毎年一定金額ヲ納付  
 シ之ニ代ユルコト。  
 其他是方追加提案ノ賠償方即チ利権期間  
 最後ノ五年間ノ設備セルモノニテ減價消却  
 未償ノモノハ政府ノ同意ニテ煉瓦家屋ハ  
 毎年五% 木造家屋機械器具等ハ十%  
 減價消却ヲ爲ス後政府ヨリ利権者ニ賠  
 償スル案ニ對シテハ最後ノ五年間ト限ラズ政府  
 ニ引渡スベキ財産中消却未償ノモノハ五%長  
 期ノ減價消却ヲ以テ計算賠償セシムルコトヲ第一  
 案トシ前記ノ率ヲ引ケルモノヲ第二案トシ何レモ  
 客認セザレバ右原案ノ五年間ヲ十年トス  
 ルコト。次ニ是方追加提案トシテ契約款  
 力發生ト同時ニ政府ノ作業繼續ノ現狀ノ  
 供當該企業ヲ利権者ノ經營ニ參入スルコト  
 ホ一ニ備ヘ依リ引渡セルベキ財産トモ引渡  
 終了ニ對シハ之ヲ使用シ得ルコト。調印後  
 一年ハ改ニ作業ヲ繼續シ居ルモノハ引渡キ作  
 業繼續ヲ委任シ得ルコトヲ要求スルコト。

MT 1710372

1-1968

0065



利権

通 14.11.17

11151

暗 215

莫斯科發

本有省自 大正十四年十一月五日在七、五。

幣帛外務大臣

田中大使

第四八五号

奥村ヨリ 三菱重工業課長へ

ニ〇号

未延氏ニ傳ヘヨ

十月七日聯電以後ノ形勢ニ付テハ十一月二日大使發外務大臣宛電報ノ通六、二、一七、二四、二八、三〇、三九及三八ノ八ヶ條ハ先方原案又ハ当方提案ニ多少ノ修正

ヲ加ヘ之ヲ議決セリ御承知願フ  
未決事項中ニ三及三ニノ二ヶ條ハ今後一、二回ノ會合ニ依リ決定シ得ベキ見込  
又ハ小企業者ニ對スル地域及報價ハ大体遺憾ナキ程度ニ於テ纏ル見込ナルモ企業組合ノ要求地域「ドーエ」「ロガトイ」「ウラジミロ」「フスキ」ノ三ヶ所中「ウ」獲得ノ見込アレドモ「ド」「ロ」ニ關シテハ前電通ニシテ先方ノ主張益々鞏固ヲ加フ斯テハ一兩年ノ間全産出炭ヲ見ザルトナリ經營上非常ノ不利益ナルヲ以テ極力「ロ」ヲ固執シ「ベルブルド」「鉦区」ノ廢除ヲ強要シ

MT 1710372

95

MT 1710372

94

1-1968

0066

先方ノ承認ヒル如ナリ

ニ報償ハ五十万噸(五〇)迄ハ五%百萬噸  
ニテ八%ニ達ス税金ハ報償ノ二十%

三従業員及労働者国籍割合ハ仕事ノ  
種別ニ依ル割合ヲ参照シ統計ニ於テ  
露國人五割但シ内夫及積込人夫ハ  
最初十年間ハ無條件

四政府財産使用料ハ使用期中 評價額  
ノ三%トスルコト 蓋シ政府財産ニ亦減  
價償却ニ依リ年々評價額ハ遞減セ  
ラルベキハ当然ナルニ不相当方ノ提案ホヲ容  
レバ更ニ大改良又ハ大修繕ノ場合ニ之ニ

居ルモ結局ノ見込甚ダ薄シ貴見如何  
其他ノ未決事項ニ付テハ前後數回ノ會議  
ニ於テ既ニ論議シ盡サレ現在ハ互譲ニ  
依リ一致矣ヲ見出スノ外ナク期日ハ目  
睫ノ間ニ迫レリ 依テ最後ノ案トシテ

一、第一條及第四條ハ先方ノ原案ヲ承  
認スル代リニ追加條項タル減價償却方  
法ハ当方案ヲ承認スルコト 但シ利権  
消滅ノ際凡テノ財産ハ無償ニテ政府引  
渡サルベキ原則ナレドモ減價償却未済  
額ハ政府之リ賠償シテ引取ルコトノ規  
定ヲ挿入スルコトハ既ニ本會議ニ於テ

1-1968

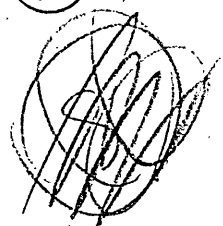
0067

要ヒシ費用ヲ評價額ヨリ減額セル第二  
回ノ提案モ亦賛成ヲ得ザリシヲ以テ結局  
借料低下ヲ提議スル所以ナリ  
以上ノ提案ハ採算上ニ於テモ既ニ北京條約  
ノ所謂収益的經營ノ限度ヲ越エタル  
極度ノ讓歩ニシテ之以上ノ讓歩ハ私設  
会社ノ代表タル小生ノ責任ヲ以テ取計ヒ  
能ハザル也此案容レラズバ決裂ヲ宣ス  
ル外ナシト思フモ國交關係ニ於テ会社ヲ  
犧牲ニスルモ之ヲ纏ルノ要アルヤモ知レズ  
政府當局並ニ実行委員會ノ意嚮次  
第取纏メ来ルニ十日頃迄ニ返電請フ  
本件ニ付テハ詳細大使ニ相談請併テ御含置願フ

MT 1710372

通 14.1116

新橋



電

五三

晴

本府署

大正十四年十一月十三日午後八三〇

幣原外務大臣

二瓶総領事

第五五號

往電第五四號蘇業代表蘇梅補宛電報ニ関シ  
 十一日ノ會議ノ結果彼我條件ノ差ハ(一)木代金ニ  
 於テ半カバク (二)輸出税ニ於テ一分(先方三分  
 当方二分)ニ違ハズ右ハ何レモ其ノ儘契約書ニ  
 記入シ莫斯科ノ裁決ヲ仰グコトニ双方同意ニタリ  
 カ (三)試業案ニ於テハ双方ノ主張ニ六ヶ年(先  
 方四年当方二年)ノ差アリ 此儘莫斯科ノ決定ヲ  
 請フコトハ察國側ニテ宸知セズ東京ニ電照ニタ

ル上組合側讓歩セサレバ目下進行中ノ契約案作  
 製ヲ中止シ交渉決裂トナル筈ナリ

MT 1710372

100

MT 1710372

99

1-1968

0069

利権



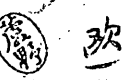
第四八七號

11/18の  
晴々

莫斯科  
本省着

幣原外務大臣

大正十四年七月十四日午後二時



田中大使

往電第四八五號並後ニ収益的經營ノ限度ヲ越エ  
タル極度ノ讓歩トアルモ右ハ本使が同意シタル  
次第ニアラス採算ノ問題ハ相当複雑ニシテ詳細  
電報スルヲ得ザルモ奥村が本使ニ内示セル採算  
表ニ依レバ經費ニ充分ノ余裕ヲ存スルニ及ビ収  
入タル賣炭價格ヲ極安ニ見積リアリ之等ヲ務め  
シタル中復ノ觀察ニ依レバ収益的經營ノ限度ヲ  
越エタリトノ斷案ヲ下シ難キモノト認ム右ハ奥  
村ハモ一應指摘シ置キタリ。

MT 1710372

101

1-1968



11187 156 莫斯科  
本省着着と去年十月十日  
改一

藩府外務大臣 田中大使

第四八三節(三)

中里より来た

大使ト協議ノ上、北地封鎖ヲ以テ十百度  
最終合議ヲ開ク(然ラズバ一定期限内ニ終  
了ノ見込ナシ)豫定タル前電所報ノ如ク  
先方ノ意向ハ甚ク強硬ニシテ一部多クノ  
譲歩ハ見ルベキト大部令ハ最後迄主張ヲ  
拒ゲサルヤモ知レザルニ付其ノ時ノ見悟ハ全

通 14.11.17

回 覽

利 権

日ヲ定メ置カザルニカラス尤モ今期延長ハ  
必ズシモ不可能ニ非ザルベキ或ハ一旦帰朝  
ノ上會社迄ニ政府側トモ熱後ヲ遂ゲ出  
道スヨト一方ナルヤモ知レザルモ其ノ際果シテ  
今日以上ノ緩和セラレタル條件ヲ以テ締結  
ニ得ルヤ歟ル疑ハシク恐クハ昨日ヲ要延ス  
ル丈益々不利ノ状況ニ陥ラト考ヘラルル而  
已ラズ若シ延期ヲ豫想スルニ於テハ全然一  
決定的ニ結果ヲ示サザルヲ得ベトスルカ  
故ニ最終合議ヲ開クコトハ無意味トスル  
ノ結局今更ニ最終合議ヲ開ク以上ハ決裂  
カ調印カノニ途何レカヲ執ルノ外ナカラン

MT

1710372

103

MT

1710372

102

1-1968

今條留條項ノ各個ニ作研究スルニ所有權  
問題ヲ對政府官ノ立場ニ譲リタル今日  
至防上ヨリ見先買上問題ヲ除キ結局新  
會社ノ収益的經營ガ可能ナリヤ否ヤノ  
點ニ依リ最後ノ決心ヲ定ムル外ナキ處  
財産使用料ニ付テハ今尚先方ノ言明セ  
ザル所ナルト一平方英里ノ試掘區域ハ  
將來如何ナルモノヲ先方が指定スルカ否然不  
明ナルト以上二個ノ暗礁アリ。尤モ前者  
付テハ將來先方ノ申出ニ對シ或ハ日本改  
廢トシテモ強硬ナル抗議ノ餘地アルキモ  
先方が此ノ際地城ヲ言明セザルト對シ

MT 1710372 104

テハ條約上者若トシテ抗議ノ餘地ナシ尙  
者ニ對テハ先方ノ要求ヲ強硬ニ要求スル  
理由アルモ強硬トシテ的確ナル言明ヲ得ザレ  
バ已ムラ得ズ或方對案ヲ以テ折合フ外  
ナレト雖之サエモ應セム然モ決裂ヲ避クル  
トスレバ最後ノ場合ハ先方ノ財産ヲ使用  
セザルノ覺悟ヲ以テ進ク外ナカル

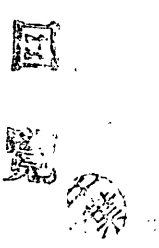
(續ク)

MT 1710372 105

1-1968

0072





1118号 暗 218 莫斯科  
原省省省大正十四年十一月十日  
田中大使

幣帛外務大臣 田中大使

利権



第四八二号ノニ  
而シテ新會社經營ノト異ニ付当切目論  
見書ノ経費ト先方原案ニテ契約シタ  
ル場合ノ経費トヲ比較スルニ(十月三日電  
報當時ト多少計算ノ相違アリ)豫算  
増加トナルモノ産額十万吨ノ時  
(一) 労銀増加二割トシテ十四万六千円  
(二) 社会保険料一三・五%トシテ十一万

MT 1710372 106

八千円

(三) 税金三・八四%トシテ七万六千円  
(四) 報償先方案トシテ十三万円  
(五) 印紙税六千円  
(六) 火災保険料一%トシテ三万七千円  
(七) 財産使用料(假定)五萬円  
(八) 露国内出張所費七万円  
合計六十三万二千円(六三三、〇〇〇)ニシテ  
内報償十一万円及税金二十一万六千円ハ  
最初ヨリ豫定セシモノナルガ故ニ右ヲ差引  
キ結局(不明)増加ハ三十万六千円トナリ  
又右ノ中露國ニ對スル納附金ヲ合算

MT 1710372 107



スレバ四十万五千円(四一五〇〇〇)トナルニ  
此ノ負擔ノミニテ収益的經營不可能  
ヲ主張シ先方ノ讓歩ヲ要求スルニ到底  
先方ノ容ル、知ト成ラザルハ從來數回討  
議ニ見ルモ明白ニシテ假令当方目論  
見書書ヲ示シテ具體的ニ説明スルモ  
結局ハ水掛論ニ終ル可キノミナラス  
生産額ノ少キコト又ハ新会社内部  
的負擔ノ過大等ニ依リテ先方ニ對シ  
有力ナル反駁ノ論據ヲ與フル結果ヲ  
見ルハ想像ニ難カラス大体右ノ如キ  
情況ニシテ要スルニ先方主張ヲ讓歩

セシタルニ是レ有效ナル理由ナキヲ以テ假ニ  
最悪ノ場合即チ先方案ヲ以テ調印  
シタル場合ニ当初目論見書ノ立テ方  
ニ從フテ經營スルニトシ果シテ如何ナル  
収入トナルヤヲ計算スルニ第三年目迄ハ  
欠損ト成ルモ其後ニ於テハ略々採算ノ  
見込立ツガ故ニ若シ出来得ル内部  
的負擔ヲ最少限度ニ止メ之ニ依リ生  
産増加ノ方法ヲ講ジ以テ収入増加ヲ  
計ル等或ハ他ノ賢明ナル方法ヲ執ル  
トセバ新会社ノ經營必スシモ困難ニ非  
ズト思考ス右ノ次第ナルヲ以テ最終合

MT

1710372

109

MT

1710372

108

議ヲ開リニ當リ本代表ハ假令如何ニ  
折衝スルモ先方ノ答ハ如トナラザレバ已ムヲ  
得ズ最悪ノ場合ト雖モ契約ヲ締結セザ  
ル可ラズト決心セリ若シ異存アラバ十八日  
迄ニ回電アリタシ當日回電ナキ場合ニ  
關シ御承認ヲ得タルモノトシテ會議ヲ進  
ムベキニ付右様御承知アリタシ以下對  
案第一第四第一二条ニ若キ重要  
ノ修正ヲ加ヘ且第一二ニ政府ヨリ引渡  
サルベキ財産ハ利権者ノ希望スルモノニ  
シテ將來第三者ノ抗議アル時ハ政府  
ニ於テ解決スルコト及評價ハ兩者協定ノ  
上行ノコトヲ要求シテ所有權問題ニ付  
(續キ)

MT 1710372



11219  
暗 138  
莫須科貨

本省着六十四年七月十五日前五日

幣原外務大臣

田中大使



利権

第四八二号之三(三)

第一八條 報償ハ六割五厘(六五〇〇)ヨリ初  
メ一割以上増ス毎二五厘五毛ヲ加フルトトシ  
且納付一加可油山 之ト値銀ヲ以テ金納トス  
第一九條 買上ガハ第一條トシテ削除ヲ要求シ  
若シ最後ト容認セバ第一條トシテ削除  
以上一割以内二十割以上一割以内ト

MT 1710372 111

第三條 十割以上五分以上十割以上  
一割五分以内二十割以上一割五分以内  
トシテ買上ヲ認ムルコト

第二〇條 報償ハ第一條トシテ納付ハ第一條  
報償トシテ

第三〇條 社会保険料ニ之ヲ認ムルニ  
病院設備完成スル迄ハ全額十八%以内  
医療衛生費ニ對スル四、五%以内ハ削除ス  
ルコト

第三一條 労働者割合ハ大体ニ於テ  
認メ日本人ノ産權ヲ容易ナラシメ一般労働  
者ノ産權修件ニ對シテ協定スルコト及本條

MT 1710372 112

1-1968

0076

適用ヲ三年間延期セシムルコト

第三七條 火災保険ノ原案ヲ過クモ火災ノ  
虞ナキモノハ附保物件ヨリ除クコト

第四三條 使用料ハ一割ヲ三分トシ且使用期  
間中未支拂財産評價ハ毎年逐減スルコト  
客認セザレバ一定期ヨリ毎年一定金額ヲ納付  
シ之ニ代ユルコト

其他先方追加提案ノ賠償方即チ利権期間  
最後ノ五年間ニ設備セルモノニテ減額消却  
未償ノモノハ政府ノ同意ニテ煉瓦家屋ハ  
毎年五%木造家屋機械器具等ハ十%  
率ヲ以テ却寫備ス後政府ヨリ利権者ニ賠

MT 1710372 113

償スル案ニ對シテハ最後ノ五年間ト限ラズ政府  
ニ引渡スベキ財産中消却未済ノモノハスベテ長期  
ニ渡ル者却テ以テ計算賠償セムルコトヲ第一  
案トシ前記ノ率ヲ用エルモノヲ第二案トシ何れモ  
客認セザレバ右原案ノ五年間ヲ十年トス  
ルコト 次ニ當方ノ追加提案トシテ契約款  
力發生ト合時ニ政府ノ作業繼續ノ現状ノ  
低当該企業ヲ利権者ノ經營ニ委スルコト  
中ニ一條ニ依リ引渡セルベキ財産トモ引渡  
終了ニ到ル迄之ヲ使用シ得ルコト 却即後  
一年ハ現ニ作業ヲ繼續シ居ルモノニ引渡テ作  
業繼續ヲ委任シ得ルコトヲ要求ス(終)

MT 1710372 114

1-1968



要再回

大正十四年



4

公文書課長	文書課發送	大正十四年三月拾六日發送済	大正十四年三月拾七日接収
	主 任	歐米局長	歐米局長
受 信	機密第一	六〇七	大正十四年十一月十日附
人 名	高工角 柳本局長	柳本局長	柳本局長
件 名	利権交渉、高工角、田中下	送付一件	送付一件
御参考ノ爲別紙送付ス			
公 信 案			
外 務 省			

(大正十四年十一月十日附在) 電報第一八二號並附屬書

MT 171037 117

1-1968





清  
工  
女  
分

~~1118~~ 莫斯科  
本省着上高年土月言  
藩外務大臣  
田中大使

第四八二號

中軍 京廷 (中定) ありて、  
田中大使ト協議 駐記 封条 試  
最終合議ヲ用 然ラズバ一定期限内ニ終  
了ノ見込ナシ 豫定九地可電所報ノ如ク  
先方ノ意向ハ甚ク強硬ニシテ一部多ク  
譲歩ハ見ルル中モ大部令ハ最後迄主張  
拒ゲサルヤモ 知ルニ付其ノ覺悟ハ今  
場合

MT 171037 118

日ヲ定メ置カザルニカラスルモ合期延長ハ  
必ズシモ不可能ニ非ザルベリ或ハ一旦帰朝  
ノ上合議迄ニ政府側トモ懸後ヲ遂ゲ出  
直スヨト一方 知ルニ付其ノ結果ニテ  
以上ニ後知セラレタル條件ニテ締結  
ニ得ルヤ否ニ疑 恐クハ時日ヲ要延ス  
ル大益、不利ノ状況ニ陥ラムト考ヘラレ、而  
己ラズ第ニ延期ヲ豫想スル、於テハ全然一  
決定得、然ラズ未カザルヲ得ルベトスルカ  
故ニ最終合議ヲ開クコトハ無意ニ末トスル  
ク結局今田最終合議ヲ開ク事ハ決裂  
カ調印カノニ途 中

MT 171037 119

1-1968

0080

今<sup>世</sup>留條項ノ各<sup>項</sup>ニ作研究スルニ所有權  
 問題ヲ對政府存留ノ交渉ニ譲リタル今日北  
 亞防上ヨリ見先買上問題ヲ除却結局新  
 有能ノ収益的經營ガ可能ナリヤ否ヤノ  
 憂ニ依リ最優ノ決心ヲ定ムル外ナキ<sup>ヲ</sup>  
 財產使用<sup>ノ</sup>料<sup>ハ</sup>、<sup>ハ</sup>今尙先方ノ言明セ  
 ギル所ナルト<sup>ハ</sup>、<sup>ハ</sup>方<sup>ハ</sup>露里ノ試掘區域ヲ  
 作<sup>ル</sup>如何ナルモノヲ先方<sup>ハ</sup>指定スル<sup>ハ</sup>、<sup>ハ</sup>不  
 明<sup>ナ</sup>ル<sup>ト</sup>、<sup>ハ</sup>二個ノ暗礁アリ、<sup>ハ</sup>尤モ<sup>ハ</sup>、<sup>ハ</sup>  
 作<sup>ル</sup>ハ、<sup>ハ</sup>將來先方ノ申出<sup>ニ</sup>對シ<sup>ハ</sup>或ハ日本改  
 善<sup>ト</sup>シテモ強硬ナル抗議ノ餘地<sup>アリ</sup>、<sup>ハ</sup>、<sup>ハ</sup>  
 先方<sup>ハ</sup>、<sup>ハ</sup>此ノ降地城ヲ言明セザル<sup>ト</sup>、<sup>ハ</sup>對シ  
 者<sup>ハ</sup>、<sup>ハ</sup>、<sup>ハ</sup>

MT 171037 2 120

今<sup>世</sup>留條項ノ各<sup>項</sup>ニ作研究スルニ所有權  
 問題ヲ對政府存留ノ交渉ニ譲リタル今日北  
 亞防上ヨリ見先買上問題ヲ除却結局新  
 有能ノ収益的經營ガ可能ナリヤ否ヤノ  
 憂ニ依リ最優ノ決心ヲ定ムル外ナキ<sup>ヲ</sup>  
 財產使用<sup>ノ</sup>料<sup>ハ</sup>、<sup>ハ</sup>今尙先方ノ言明セ  
 ギル所ナルト<sup>ハ</sup>、<sup>ハ</sup>方<sup>ハ</sup>露里ノ試掘區域ヲ  
 作<sup>ル</sup>如何ナルモノヲ先方<sup>ハ</sup>指定スル<sup>ハ</sup>、<sup>ハ</sup>不  
 明<sup>ナ</sup>ル<sup>ト</sup>、<sup>ハ</sup>二個ノ暗礁アリ、<sup>ハ</sup>尤モ<sup>ハ</sup>、<sup>ハ</sup>  
 作<sup>ル</sup>ハ、<sup>ハ</sup>將來先方ノ申出<sup>ニ</sup>對シ<sup>ハ</sup>或ハ日本改  
 善<sup>ト</sup>シテモ強硬ナル抗議ノ餘地<sup>アリ</sup>、<sup>ハ</sup>、<sup>ハ</sup>  
 先方<sup>ハ</sup>、<sup>ハ</sup>此ノ降地城ヲ言明セザル<sup>ト</sup>、<sup>ハ</sup>對シ  
 者<sup>ハ</sup>、<sup>ハ</sup>、<sup>ハ</sup>

MT 171037 2 121

普 號  
受榮 / 33  
14.11.10

76

歐米局

普通第八五號

大正十四年九月十六日

要目付

大正十四年九月十四日記録係接受

綴込名

外務大臣男爵 幣原喜重郎殿

在亞港日本總領事館  
總領事代理 副領事 鈴木相三

在亞港日本總領事館  
副領事 鈴木相三

オハ、アホルケン、一行出迎、發傳艇坐橋、開ス件

九月九日當地外交委員、アホルケン、郵便局長、フケヤコ、及稅關吏、ラハルケン、ノ三名、オハ、石油輸出、關ス、任務ヲ帶ヒテ陸路、オハ、向ヘリ、翌日、アホルケン、代理、エウエフキ、氏、自ラ本官ヲ訪ヒ、オハ、地方交通不便ニ依リ北辰會、小蒸汽船ヲ、ヌイオ、迄出迎ニ回航ス、概、斡旋方依頼セシ、依リ本官、直ニ北辰會、其旨打電セリ

在アホルケン日本帝國總領事館

十三日北辰會ヨリ目下、洲崎、持務艦石油積込中ニテト遺域希、望ニ添、難キ旨返電ニ接セリ、依テ本官、直ニエウエフキ、氏ヲ訪、向シ其旨ヲ告ケタルニ同氏、聊カ不満ノ情ヲ表シ、本官、重ネテ北辰會及洲崎、艦長ニ宛テ、アホルケン、一行、當地ニ於テ最高機、密ニテ石油利権ニ對シテモ重要ナル役割ヲ擔シ居ル者ナリト同一、行、利権就業者ニ對シテ好感ノ有無、就業者等カ一行、對シテ、テスル、好意ト相聞ス、ト不、斯、種ノ反、對、將來ノ、利権業、モ影響有ストコロ大ニヘキヲ等ヲ述、北辰會、小蒸汽船、ニテ使用、絶對ニ不可能ニ於テ、洲崎、艦載汽艇ニテモ回航セシメラ、レテ、如何ト電報セリ

然トコロ十五日北辰會ヨリ、アホルケン、一行出迎、為メ發傳艇一隻昨夜、ピソツシ、チヤイオ、方面へ向ケ出發ニ際シ、激浪、為メ川口ニ於テ、坐橋セシ、依リ出發ヲ中止セシ旨電報ニ接セリ

MT 1710372

123

MT 1710372

122

1-1968

0082

本官、直、エウヰキール氏ヲ訪問シテ右ノ次第ヲ告ケ、他亦北辰會  
ニ對シテハ電報ヲ以テ配慮ヲ謝ス。トモ、海難ニ對スル同情ノ  
意ヲ表シ置ケリ。  
右件參事ノ為メ報告ス

在  
アレクサン  
ブルグ  
日本帝國總領事館

MT 1710372

124

1-1968

0083



東京新聞 昭和二十一年七月

1118号 暗 218 莫斯科料 方より四月十日電 本報東京七月十日電 本報東京七月十日電

幣帛外務大臣宛 田中大使書

東京新聞 新會社経営ノ真ニ付当切目論

見書ノ経費ト先方(露国)京案ニシテ契約ニシテ  
ル場合ノ経費トヲ比較スルニ(十月三日電)  
報當時(七月)計算ノ相違アリ(豫算  
増加トナルモノ産額十万吨ノ時)  
a. 労銀増加二割トシテ十四万六千円  
b. 社会保険料一三・五%トシテ十一万

MT 1716372 127

八千円

c. 税金三・八%トシテ七万六千円  
d. 報償(露国)案トシテ十三万円  
e. 印紙税六千円  
f. 火災保険料一%トシテ三万七千円  
g. 財産使用料(假定)五萬円  
h. 露国内出張所費七万円  
合計六十三万二千円  
内報償十一万日圓 税金二十一万六千円  
最初ヨリ豫定セシモノナルガ故ニ如ク差引  
イ結局(不明)増加ハ三十万六千円トナリ  
又右ノ中露国ニ對スル納附金ヲ合算

MT 1710372 128

(新卒)

スレバ四十万五千円トナル  
此ノ負擔ノ<sup>程度</sup>ニテ収益的經營不可能ナ  
リ主張シ<sup>難</sup>キ<sup>カ</sup>テ讓歩ヲ要求スルニ到底  
<sup>未</sup>カ<sup>ク</sup>、容ル、知ト成ラザルハ<sup>結果</sup>數回討  
議ニ見ルモ明白ニシテ假令<sup>結果</sup>數回討  
見書書ヲ示シテ具體的ニ説明スルモ  
結局ハ水掛論ニ終ル可キノミナラス  
生産額ノ少キコト又ハ新会社内部  
的負擔ノ過大等ニ依リテ先方ニ對シ  
有力ナル反駁ノ論據ヲ與フル結果ヲ  
見ルニ想像ニ難カラズ<sup>カ</sup>大体右ノ如キ  
情況ニテ要スルニ<sup>先方</sup>住張ヲ讓歩  
シ<sup>要</sup>スルニ<sup>先方</sup>住張ヲ讓歩

MT 1710372 129

セシタルニ是レ有效ナル理由ナキヲ以テ假  
最悪<sup>シ</sup>場合即チ先方案ヲ以テ調印  
シタル場合ニ当初因論見書ノ立テ方  
ニ從テ經營スルニ<sup>結果</sup>如何ナル  
収入トナルヤヲ計算スルニ<sup>三年</sup>目迄ハ  
欠損ト成ル<sup>キ</sup>其後ニ於テハ略々採算ノ  
見込立ツガ故ニ若シ出来得バ内部的  
負擔ヲ最少限度ニ止<sup>ル</sup>ニ依リ生  
産増加ノ方法ヲ講<sup>ズ</sup>以テ収入増加ヲ  
圖<sup>ル</sup>計<sup>ス</sup>ル等或ハ他ノ賢明ナル方法ヲ執<sup>ル</sup>ト  
トセバ新会社ノ經營必スシモ困難ニ非  
ズト思<sup>フ</sup>考<sup>ス</sup>概<sup>シ</sup>次第ナルヲ以テ最終合

MT 1710372 130



(昭和21年)

議ヲ開クニ當リ本代表ハ假令如何ニ  
折衝スルモ先回極ノ空合ル如トナラザレバ已ムヲ  
得ズ最悪ノ場合ト雖モ契約ヲ締結セザ  
ル可<sup>至急</sup>ズト決心セリ若シ異存アラハ相<sup>相</sup>合  
迄ニ<sup>至急</sup>電<sup>ハ</sup>カ<sup>カ</sup>シ<sup>シ</sup>當<sup>日</sup>回<sup>電</sup>ナキ場合ニ  
關シハ御承認ヲ得タルモノトシテ會議ヲ進  
ムベキニ付右様御承知アリタシ以下對  
案<sup>案</sup>第<sup>一</sup>條<sup>條</sup>第<sup>四</sup>條<sup>條</sup>第<sup>十</sup>條<sup>條</sup>ニ若干重要<sup>な</sup>  
修正ヲ加ヘ且第<sup>十</sup>條<sup>條</sup>ニ政府ヨリ引渡  
サルベキ財産ハ利権者ノ希望スルモノニ  
シテ將來第<sup>三</sup>條<sup>條</sup>ノ抗議アル時ハ政府  
ニ於テ解決スルコト<sup>註</sup>及評價ハ兩者協定ノ  
上行<sup>コト</sup>ヲ要求シテ所有權問題ニ<sup>年</sup>ヲ<sup>解</sup>スル<sup>コト</sup>

トシテ

MT 1710372



要  
電第 7361 號  
大正十四年十一月十七日午後二時二分發

14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40  
41  
42  
43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50  
51  
52  
53  
54  
55  
56  
57  
58  
59  
60  
61  
62  
63  
64  
65  
66  
67  
68  
69  
70  
71  
72  
73  
74  
75  
76  
77  
78  
79  
80  
81  
82  
83  
84  
85  
86  
87  
88  
89  
90  
91  
92  
93  
94  
95  
96  
97  
98  
99  
100

電 信 案	外 務 省	未 正 中 國	十 四 日 政 策 交 渉 に 関 し て の 電 報 出 発	件 名 北 方 局 の 交 渉 に 関 し て 	宛 中 國 大 使	暗 號 第 三 六 七 號	主 任 課 長 正 十 四 年 十 月 十七日
						發 部 長 の 電 報	名 込 綴 支 隊 の 電 報

電信課長

電信案

(原議用紙甲) 國精

MT 1710372 132

1-1968



昭和四十二年十一月十日

外務省  
長官

別冊電報、元々一中央官公署、  
東京市麹町区有樂町一丁目番地有樂館

株式會社  
北辰會  
電話 大手五三四三

MT 171037z

133

1-1968

0089

11219  
時  
1128

本省着本六十四年十月十五日午前

美次科長



水

華英外務大臣

由甲大使

第四八号(三)

第百十八條 報償ハ六萬五千噸ノ内ヨリ初  
期一萬噸ヲ増ス毎二萬五毛ヲ加フルトトシ  
且納付ニ加テ油山ニ付ト價值ノ以テ金納トス  
市十九條 買上ガハ一索トシテ前除ヲ要求スル  
若シ最後ト容認セバ亦二索トシテ十萬  
噸以上一割以内二十萬噸以上二割以内ト

MT 1710372 134

第三十條 十萬噸以下五分以上十萬噸以上  
一割五分以内二十萬噸以上二割五分以内  
トシテ買上ヲ認ムルコトナラス

第二〇條 報償ノ第一級トシテ納付ハ第六條ノ  
報償ト合算ナリ

第三〇條 総合保險料ノ之ヲ認ムルニ政府  
ノ病院設備完成スル迄ハ金額ノ八%ノ内  
医療衛生費ニ對シテ四%五%ノ内ニ控除ス  
ルコト

第三一條 労働者割合ノ大体ニ於テ意書ヲ  
認ムル日本人ノ産權ヲ容易ナラシムル一級労働  
者ノ産權修得ノ豫メ協定スルコト

MT 1710372 135

1-1968

0090

通用ノ車庫棚延期セシムコト  
 第三七條 火災保除ノ原案ヲ過ルニモ  
 火災ノ  
 虞ナキモノハ附保物件ノ除クコト  
 第四三條 使用料一割ヲ三分トシ  
 結  
 使用中ノ未支拂財産評價ハ毎年逐減スルコト  
 容認セザレバ一定期ヲ毎年一定金額ヲ納付  
 之ニ代ユルコト  
 其他未大追加提案ノ賠償方即チ利権期間  
 最後ノ五ヶ年間ニ設備セルモノニ逐減消却  
 未償ノモノハ政府ノ全意ニテ  
 繰上家屋  
 毎年五%木造家屋機械器具等ハ十%  
 率ヲ以テ貯蓄満了後政府ヨリ利権期間ニ賠償

債入ル案ニ對シテハ最後ノ五ヶ年間ト限ラズ  
 政府  
 二引渡スベキ財産中消却未償ノモノハ繰上長  
 期  
 二渡ル消却ヲ以テ計算賠償セルコトヲ第一  
 案トシ前記ノ率ヲ用ユルモノヲ第二案トシ  
 第三案トシ  
 容認セザレバ一定期ヲ毎年一定金額ヲ納付  
 ルコト  
 次ニ追加提案トシテ契約致  
 力發生トシ  
 今時  
 政府ノ作業繼續ノ現状ノ  
 俾当該企業ヲ利権者ノ経営ニ委スルコト  
 中十一條ニ依リ  
 度ナルハ財産トシテ  
 終了ノ利権使用ヲ得ルコト  
 結  
 一書ハ此ノ作業ヲ繼續シ居ルモノハ引渡  
 業繼續ヲ委任シ得ルコトヲ要求ス

MT 1710372 137

MT 1710372 136

信 發

案 文 電

重 役  
年 月 日 言  
件 名

一 四 年 一 月 一 七 日 前  
後

時

受 信 人

課 長

發 信 人

未 延

モ ス コ ー

中 里

課 員

起 案 者

十四日附貴電十七日申朝受取ル直クニ會議ヲ開クモ政府トノ交渉  
モアリ十八日迄ニ返電出來ルヤ否ヤ覺束ナシ

MT

1710372

138

1-1968

0092

周任

四  
項  
號

大臣 次官 電信課長  
亞細亞 歐米 通商 條約 人情 會計 文書 對支文化

電信課長

藤井

大臣 次官

延五

略

莫斯科科長

本署 第百四十四号 十月十六日 前同。

幣原外務大臣

田中大使

大正四年三月四日

記録係接受

件名
綴込名

第百四十四号 (十七日付)  
 往電第百四十八号 附関  
 十六日、會議、於、既、開、油、田、問題、大、体、  
 満足、解決、之、試、掘、地、域、之、付、テ、モ、相、当、  
 一、進、展、ヲ、見、依、テ、先、方、ノ、希、望、モ、ア、リ、遲、ク、モ、今、  
 週末、中、里、ヲ、レ、テ、カ、レ、ビ、ツ、ケ、ト、未、決、問、題、  
 之、有、懇、談、セ、シ、ム、意、向、亦、前、週、電、報、

MT 1710372

140

周任

大臣 次官

電信課長  
亞細亞 歐米 通商 條約 人情 會計 文書 對支文化

電信課長

藤井

延五

略

莫斯科科長

本署 第百四十四号 十月十八日 前同。

幣原外務大臣

田中大使

大正四年三月四日

記録係接受

第百四十三号 (十七日付)  
 先月、下旬、以来、病、氣、引、籠、中、ナ、リ、レ、  
 ハ、近、日、中、外、閣、之、轉、地、療、養、ス、ベ、シ、ト、尤、モ、  
 次、席、ク、レ、イ、ビ、ツ、ケ、ト、從、来、通、リ、利、権、交、渉、ヲ、  
 管、掌、ス、ル、事、

件名
綴込名

MT 1710372

139



對し至急田訓アリタシ

MT 171037z

141

1-1968

0094

文書課

公文信案

別紙

文書課長

大正十四年十月十八日

(甲) 號用紙

文書課發送

大正十四年十月十八日發送済

淨書

正校(原稿)

(淨書)

主 管 歐米局長

主 任 歐米局課長

大正十四年十月十八日

機密 第七一四 號

大正十四年二月十八日

附屬書

通

受 信

海軍省海軍局長

發 信

欧米局長

人 名

高橋 嘉吉 局長

人 名

欧米局長

件 名

石浦利根交済(同) 記帳送付ノ件

名 込 級

文書局

右名  
特設

御參考ノ爲別紙送付ス

(大正十四年十月十八日附在) 電報(往) 機第一〇九四號寫並附屬書寫

1/2 要再回

公 信 案

外 務 省

MT 1710372

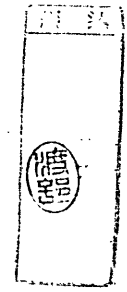
142

1-1968

0095

1308  
~~1308~~

本者 兼所科表  
昭和十四年十一月十八日



一

幣原外務大臣 田中大使

143

菲島中野

往電第四八〇番に關し  
十六日ノ會議ニ於テ既關油田問題大體  
満足ニ解決シ試掘地域ニ付テモ相違  
ノ進展ヲ見依リテ先方ノ希望モアリ遲クモ今  
週末中里ヲシテケレービツケト未決問題  
ニ付懇談セシメ意旨ニ付前頭電報ニ

MT 1710372 143

對シ至急田訓アリタシ

144

MT 1710372

1-1968

0096

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

大會

文書

對支文化

門類項號

件名	
綴込名	

11309  
暗引 莫斯科  
本省 大正十四年十一月十八日  
十首 四二九

幣外務大臣

田中大使

第四九五号(十七日台) 至急

大正十四年三月四日 記録係接受

中里ヨリ来延  
電見タリ前電ノ通ノ次第ニ付速ニ返電  
ナケレバ本代表ノ立場非常ニ困難トナ  
ルヲ以テ是非共金曜日迄ニ返電到着  
スル様頼ム 昨十六日夜地域問題ヲ  
議セシニ大体ニ於テ空氣良好ナリ 明十八  
日ハ火災保険及当方ノ追加條項ニ付  
会議ヲ開ク予定

MT 1710372

145

1-1968



要再回

機密

大島

本件

文書課長檢印

公信案

大正十四年十一月十八日接覽

紙

文書課發送 大正十四年十一月十八日發送済

淨書

河

正(原稿)

淨書

(甲號用紙)

公 信 案	外 務 省	御参考ノ爲別紙送付ス	件名	受 信 人 名	管 主 任	機 密 第 一 号	大 正 十 四 年 十 一 月 十 八 日 附	附 屬 書 通
			綴 込 名	發 信 人 名	海軍省軍需局長 高工省省長 樺太共取局長 利根支隊之田中 電報送付一件	歐米草大正十四年十一月十八日 歐米草課	海軍省軍需局長 高工省省長 樺太共取局長 利根支隊之田中 電報送付一件	綴 込 名

(大正十四年十一月十八日附在) 電報第四九五號寫並附屬書寫

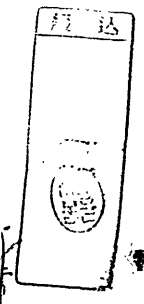
MT 171037Z 146

1-1968

0098

1130

暗算 莫斯科  
本島着 大正十四年十一月十八日



幣外務大臣

田中大使

第... (vertical text)

至急

中... 未延へ中...  
電... 次第... 速ニ返電  
ナ... 本代表ノ立場... 困難トナ  
ルヲ以テ是非共金曜日迄ニ返電到着  
スル様... 昨十六日夜地域問題ヲ  
議セシニ大体ニ於テ空気良好ニシテ  
日ハ火災保険及当方ノ追加條項ニ付  
會議ヲ開ク事ナリ

MT 171037Z

147

1-1968

0099

19/12  
要再回

特急

6

公 信 案	御参考ノ爲別紙送付ス	件名	受信	管主	文書課發送
		人名	人名	任主	文書課長
外 務 省	(大正十四年十一月十八日附在 前來在電線第九〇二號電報附屬書寫)	名込級	發信	歐米局長	文書課發送
		人名	人名	歐米局長	長檢印
		交際一紙	歐米局長	歐米局長	文書課發送
			歐米局長	歐米局長	文書課發送

MT 1710372 148

1-1968





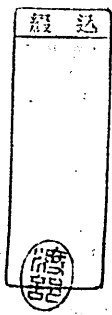
左

1311

莫斯科科費

本者看

大正五年十一月十八日



次

幣原外務大臣

田中大臣

岸四九三

先月下旬以来 病氣引籠中ナリレ  
ハ直日中外閣ニ轉地療養スベシト尤モ  
次席ニカレイビツナニ從來直リ利権交渉ヲ  
管長ニ付スル也

MT

1710372

149

1-1968

決官

要再回

機密

2

文書課長

文書課發送

大正十四年十二月拾九日發送済

淨書 (魯川)

正校原稿

(甲號用紙)

主 管 歐米局長

主 任 歐米局長

大正十四年十二月十九日附

受 信

大角海軍次官

津野陸軍次官

四條南次官

大藏次官

山川法制局長官

件名 莫斯科利格交涉關スル三菱北展會

休贖電報送付件

發 信 人名

出外務次官

名 級

教 文部省

公 信 案

外 務 省

四八二号並ニ奥村発未延宛田中大使来電第四八五号

ニ關シ今般別紙寫甲号及乙号ノ通未延氏ヨリ各々

(乙號用紙) 圓納

返電ヲ發シタルニ付右取取エス送付ス

(別添未延發中里宛電報寫ヲ甲号トシ未延發奥村宛電報寫ヲ乙号トシ添付送付ノト)

外 務 省

MT 171037Z

151

MT 171037Z

150

1-1968

0102

電送第 43931 號  
14年11月9日 1時 分發

友  
友  
友

電 信 案	未 送 中 里 ハ	第 三 六 八 號	宛 在 莫 斯 科 田 中 大 使 在	件 石 波 利 核 交 渉 案 關 連 件	主 任 歐 米 高 長 任 主 歐 第 一 課 起 草 大 正 一 四 年 一 一 月 一 八 日
			發 解 東 外 務 省 長	名 込 級 交 渉 案 關 連 件	(原議用紙甲) 團納
外 務 省	右の十四年十一月十八日付其原案未送係暫行 別添付文書ハ終行會ノ事ト				

MT 171037Z 152

1-1968

0103

東京市豊町區有樂町一丁目一番地（本館内）  
株式会社北辰會  
電話大手五三四三番

大正十四年十一月十九日  
受信人 モスコー  
中里  
發信人 末延

貴下最終ノ對案ハ大体已テ得サルトスルモ（一）既開油田ノ地區（二）試掘區域ノ撰定權者及試掘區域ノ復數ナルコト、以上二項ノ確定ハ細目協定ニ於テ取極ムベキ最重要ナル事項ニ付此際是非トモ決定シ置クノ必要アルベシ

又收支ノ決算ニ於テ三ヶ年間缺損トナリテハ新會社成立ノ見込ナキニ依リ議定書乙第一及第七ニ基キ二年目（<sup>長計案ニ依リ</sup>）<sup>（長計案ニ依リ）</sup>繰分ナリトモ利益ヲ舉クルコトヲ得ル程度ニ負擔ノ軽減ヲ要求セラレタク若シ先方ニ於テ飽ク迄讓歩ヲ肯セザレハ他ノ點ニ於テ假令協定成立スルモ最終ノ目的タル新會社ノ成立ハ到底望ナシト信ス  
序ニ報償油ニ對スル課税ハ免除セララルベキモノト思考ス。報償率ハ

本行印  
大正十四年十一月十九日  
東京市豊町區有樂町一丁目一番地（本館内）  
株式会社北辰會  
電話大手五三四三番

東京市豊町區有樂町一丁目一番地（本館内）  
株式会社北辰會  
電話大手五三四三番

超過額ニ對シテノミ増加セラレザレバ不公平ノ結果ヲ生ズベシ歩油金納ノ場合モ加州原油標準値段ヲ以テ買上油ノ場合ニ適用セラレザル様注意ヲ要ス

MT 1710372 154

MT 1710372 153

1-1968

0104